

平成29年3月7日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜
1番 豊村貴司
3番 朝長 勇
6番 松尾陽輔
8番 石丸 定
10番 上田雄一
12番 古川盛義
15番 末藤正幸
17番 吉原武藤
19番 川原千秋
21番 松尾初秋
24番 谷口攝久

副議長 吉川里己
2番 猪村利恵子
4番 山口 等
7番 池田大生
9番 石橋敏伸
11番 山口裕子
14番 山崎鉄好
16番 宮本栄八
18番 山口昌宏
20番 牟田勝浩
23番 江原一雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 友廣秀敏
次 長 江上新治
議事係 長 吉永和彦
議事係 員 杉原啓仁

4. 地方自治法第121条により出席した者

市	長	小	松	政
副	市	前	田	敏
教	育	浦	郷	美
副	教	浅	井	究
技	育	松	尾	司
総	務	北	川	政
企	画	平	川	次
営	業	井	上	剛
営	業	千	賀	祐
営	業	小	田	耕
く	ら	大	宅	敬
く	ら	井	上	将
こ	ど	諸	岡	隆
こ	ど	水	町	直
ま	ち	古	川	清
山	内	橋	口	一
北	方	岩	瀬	
会	計	中	野	博
上	下	笠	原	孝
総	務	川	久	保
財	政	松	尾	和
企	画	古	賀	龍
				一
				郎

議 事 日 程 第 2 号

3月7日（火）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成29年3月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
1	4 山 口 等	1. 教育について 2. 子育て支援について 3. 安全安心のまちづくりについて
2	21 松 尾 初 秋	1. ごみ袋について 2. 情報公開について 3. 新幹線について 4. 競輪事業について 5. 新庁舎について 6. 農政について 7. カジノ法制定と武雄の観光について
3	16 宮 本 栄 八	1. 観光の課題について 2. 主要道路の整備 3. 工業団地と用水 4. 競輪の経営方針 5. 相続登記等の問題 6. ピロリ菌検査拡大 7. 市民サービス改革 8. 教育・子育て
4	10 上 田 雄 一	～武雄市の今後の方向性について～ 1. まちづくりについて
5	20 牟 田 勝 浩	1. 市政事務に対する質問・提言

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を開始いたします。

一般質問は18名の議員から66項目についての通告がなされております。日程から見まして、本日は20番牟田議員の質問まで終わりたいと思います。

質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の答申のとおりでございます。議事の進行につきましては、特に御協力をお願いいたします。また、執行部の答弁につきましても、簡潔で、かつ的確な答弁をお願いいたします。

それでは、最初に4番山口等議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから山口等の一般質問を始めさせていただきます。

前回、12月議会が私は最終日の最後でありました。今回は最初のトップバッターであります。気持ちを新たに臨みたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

では、さっそく始めさせていただきます。

今回は大項目で3項目。まず1つ目に教育について、2つ目に子育て支援について、3つ目に安全安心のまちづくりについて質問させていただきます。

まず始めに、教育についてであります。そのうち1番目に官民一体型学校の花まる学園について質問をさせていただきます。

この写真は3年前、平成26年5月に総務文教常任委員会で埼玉県の浦和市に視察に行ったときのものです。この花まる学園、塾ですね、ここに視察をさせていただきました。

ここに訪れたとき、子どもたちの声の出し方、また行動、授業態度、そのメリハリに、本当に圧倒されたことでした。

また、同年7月には長野県北相木村、ここ人口が約800人ぐらいしかおられない村なんですけども、この北相木小学校全校児童が47名。そのうち、山村留学の方が15人というような学校の花まる学習の状況を視察させていただきました。

この学校においても、子どもたちの明るさ、目の輝き、そして、生き生きとした授業への取り組み、これが非常に印象的だったと思っております。

これから、3年がたちました。武雄市でも、花まる学習は小学校11校のうち5校が既に始まっております。また、ことし4月から西川登小学校、来年平成30年4月からは山内西小学校、山内東小学校、北方小学校で始まることになってます。そして平成30年10月には武

雄小学校、平成32年4月には御船が丘小学校で花まる学習会が始まるようになっております。

先月、2月19日のことです。トムソーヤフェスティバルの中で、官民一体型花まる学園の取り組みについて大討論会が文化会館大ホールで行われました。現在取り組んでいる5校の学校から、地域、学校、保護者の皆さん、そして児童の代表者が集まり、いろんな意見が出されておりました。

児童に対しても、花まるタイムの感想は、また、あおぞら教室の感想は、そしてなぜペーの授業はどうですかなどの質問もされておりました。

そこで教育長にお伺いします。この演目を受けて、各学校や地域、保護者の方からどのような意見があったのか。特に、これから始まる学校区の方からどのような意見が出たのか。また、そういった相談があったのか、まず初めにお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

おはようございます。花まる学園の学びについて、2月19日に大討論会をさせていただきました。ごらんいただいた方もたくさんいらっしゃると思います。190名ほどの参観者がありましてですね、子どもたちが5校から20名出てもらいまして、実際にやってもらったところでございます。

私も、こう見ておまして、子どもたちが本当にほとんど20名変わりなく、発言ができ、変わりなく学びができるわけですね。そういう意味で、本当に充実した取り組みをしていただいていると感謝をしたところでございます。

これから開始される学校からも来ていただいておりますけれども、実際に映像ではなくて花まるタイムの様子が見れて、本当にわかりやすかったという声もたくさんお聞きました。

また、それぞれ子どもたちもそうですし先生方も、それから地域の方も一緒に討論をしてもらったわけで、それぞれの立場での意見を聞くことができ、今後の取り組みを開始する参考になったというような声を幾つもいただいたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。20名ほどが変わりない学びができたということで、この官民一体型学校は各学校区のほうで協議会を立ち上げていただいて、地域で話し合い、地域にあった進め方をしておられます。

今回の討論会の中で、花まる学園の取り組みを進めてきてよかったということで、私がちよっと気づいたところは、ある地域の方が言うておられましたけども、地域で学校の話をするができるようになったと。そして、子どもたちのことについて話すことができるよう

になったというようなことを言っておられました。

再度、教育長にお伺いします。教育長は10年ほどかかるということをおっしゃっています。まだまだ道半ばでございます。地域によってはいろんな課題も出てくるでしょう。この2年間で成果を踏まえてですね、またその対策など取り組みをどのようにしていかれるのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

26年、27年、28年と3年経過したわけでございます。その間、御存じのとおり区長会長さんをトップにした学校づくり協議会を立ち上げていただいて進めていただいたと、大変感謝をしてるところでございます。

これまでも、4校でコミュニティスクールの授業を進めてまいりましたけれども、新年度はコミュニティスクールを全小中学校に広げまして、自分の町の学校のあり方として、今お話にありましたように、その地域ならではの学校づくりになってくると思うんですけれども、その可能性を求めて、学校が自分の町の学校としてどうあるべきかというのを地域の方も一緒に考えていただいて、進めていく方向を考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。また、この討論会の中で地域と学校がお互いの役割をしながら自覚し合って、それをかけ合わせることによって、効果が生まれるという意見もありました。

今度は小松市長にお伺いします。市長が考える、地域の学校教育に関わる上での役割や、また、期待することはどういうことなのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。まずは、先日大討論会に来ていただきました200名弱の皆様、そして普段から支援をしていただいている皆様に心より感謝を申し上げます。

地域の役割ということですが、まずはですね、これまで入ってなかった地域の方が実際に授業に入ること、そして先生ではない第三者からほめられるということは、子どもたちの自己肯定感につながるというふうに思っています。あ、自分もできるんだという、そういうふうな効果があるというふうに思っております。

そしてもう一つは、やはり地域づくりにつながるというところだと思っています。地域の皆さんに、学校を一つの拠点として足を運んでいただくことで、そこで子どもたちと地域の

皆さんとの関係が生まれると。いわば顔の見える関係がつけられると。それは子どもたちにとっても地域の人にとっても安心感にもつながる。まさに地域づくりにもつながってくると、そのように考えております。

期待することということですが、とにかく一人でも多くの方に学校に足を運んでいただきたいというふうに考えております。例えですけれども、一人の方が100回来る、これは本当に素晴らしいことですが、加えて、例えば100人の人が一回でもいいから来てみると、そういったやはり継続と広がりを見ると、そういった動きが出てくるということを期待しております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

今言われました一人でも多くの方、確かに花まるの15分、朝の15分か20分だと思うんですが、やっぱり同じ方というよりもより多くの方に来ていただいて、やっぱり子どもたちの姿をですね、やっぱり見てほしいなということを思ったところでした。

次、2つ目のICT教育について伺います。

武雄の反転授業、スマイル学習ですね、これに取り組んでもう3年になります。先日、佐賀新聞に5回に渡って連載の記事が載っておりました。

その中で、課題も多く出ております。授業の実施率の問題、また学校間の格差の問題、そしてまた、先生方のスマイル学習に対する温度差というようなことも上げられております。

このICT教育の検証は、東洋大学の先生方で今携わっておられますけれども、近いうちに第3次の検証報告があるように聞いております。そういう中で、このような課題についての対策等をどのように考えておられるのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）ICT教育についてこれまで進めてきたところでございますが、主な概要を申し上げますと、今お話にありましたスマイル学習、武雄式の反転授業ということで小学校3年生以上の算数、4年生以上の理科、それから2年生から4年生の国語、中学校では全学年の数学、理科ということでやっております。

また、プログラミング教育についても、DeNAと連携して3年間、山内西小学校で1年生から3年生まで進めてきたところです。

さらに、ソフトバンクグループの社会貢献授業ということで、ペッパーの配置を考えております。

オンライン英会話を6年生でやっております。

それから、電子黒板との連携やドリルで練習機能を十分生かした活用、カメラ機能など当然のことではありますが、全小・中学校において本当にさまざまな領域で活用してるところでございます。

一番下であります、文部科学省の補助授業ということで、これまでスーパー食育スクール事業とか、あるいは北方小学校、北方中学校での先導的な教育体制構築授業。そして、フリースクールで学ぶ不登校児童生徒への支援モデル事業。また、ここには書いておりませんが特別支援学級で一人一人の子どもたちにあったプログラムで推進するというように、スマイル学習をメインにはありませんけれども、いろんな形の活用をしてきてるところでございます。

そういう中で、今お話にあったような課題も当然あるわけではありますが、その検証を3月24日に報告をいただくようになっているところでございます。

お話にあった課題につきましては、それぞれのコンテンツの修正であったり、あるいは活用場面の検討等含めまして学校と一体となって進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

教育長は武雄の教育改革の中で3本の矢ということをおっしゃられます。まず、全児童へのタブレット端末の貸与ですね。それとスマイル学習、また、官民型一体学校、この3つを3本の矢として、この3本の矢の化学反応に期待するというおっしゃられます。どのような化学反応に期待されておられるのか、教育長に改めてお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

化学反応という言葉は私が使い始めたのかはわかりません。ちょっと合わない感じもしております。

新聞記事のところでも申し上げたんですが、一人一人の子どもたちをより確かに育むためには本当に有効ではないかということを感じております。

先ほど市長から話がありました官民一体型学校では、子どもたちの自己肯定感が高まると。数値としてなかなか見えませんが、地域の方がどれだけ子どもを知ってもらい、子どもたちが地域の方をどれだけ知ったかということは、目に見えない安心感であり、力であろうというふうに思います。一人一人の子どもにとって、そういう存在感が認められる取り組みだと思っております。

スマイル学習は先ほど言いましたように、自分の学びを学校に持ち寄って、共同的に話し合って高めるということでありますので、まさに一人一人であります。

タブレット端末の、先ほど申しましたさまざまな活用も、だれかじゃなくて、何人かできる人じゃなくて、一人一人の子どもたちの学びをしっかりと見ていくことができるという意味で一人一人の学びを確かなものにする、そういう総合的な考えを持っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

スマイル学習の利点はですね、お互いが話し合い、お互いが学び合う、そういったところだと思います。

武雄小学校に一人一台のタブレット貸与がされて、もう3年がたちました。今度は市長にお伺いします。このスマイル学習やプログラミング教育を含むICT教育の全体の取り組みについて出てきた成果、またいろんな課題がある中で何を育み、何を目指しておられるのか、今後の方向性についてお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず、ICTはツールであるという認識が大事だと思っています。その上で、タブレットを1人1台配付してICT教育に取り組むというのは、一つはやはり情報化社会への対応です。たくさんある情報の中で、どのようにそれに接していくかという、そういった情報化教育、社会への対応というのが1つ。

もう一つは、文部科学省も言ってるんですけども生きる力を育むと。生きる力というのは、21世紀型スキルとも言われていますけれども、読み書きそろばんに加えてですね、例えば皆で話し合っ、学び合っ、お互いに何かを生んでいく、そういった力ですとか、そういったのがこれからは求められているというふうに考えております。

その上でスマイル学習などをやって、いわば読み書きそろばんを効率的にやる。そして生まれた時間で話し合い、学び合いというような、これから求められる力をつける時間をしっかりと確保していくと、そういった意味があるというふうに思っています。

ICT教育、さまざま取り組んでおりますけれども、やはり大事なのは子どもたちがこれからしっかりと生きていく力をつける、そのためにうまく活用をしていくというところが一番大事かと思っておりますし、これからもそのような考えでICT教育を進めてまいりたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。先日、私たちが今行っているなかよし川良っ子の中でですね、子どもたちにスマイル学習のタブレットについてちょっとお話を聞きました。そしたら非常に、皆さんよくしっかり取り組んでいてですね、また、宿題とか予習もしっかりやっていて、特に動画である理科とかですね、そういったのは非常にわかりやすくていいよというようなことも言っていました。

これから先もですね、これを十分に活用していただいて、武雄市の教育の大綱であります、組むということの基本において進めてほしいと思います。

それでは次に、教育についての3番目の質問に入ります。道徳の授業についてであります。

皆さん御存じだと思いますけども、平成30年度から道徳の時間が、道徳の教科化になります。

まず、この違いについて、まずお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）お話のように、平成30年から全面実施。道徳が教科として、特別の教科、道徳として実施されるわけでありまして。

特別の教科となる理由としましてはですね、やっぱりいじめに関する痛ましい事案があって、それに対して今の道徳教育が応えきれているかという反省があるかと思っています。

また、道徳、昭和33年からスタートしているわけですが、読み物の教材でですね、その気持ちに添って考えて、自分の心を深めて道徳性を身につけるといって授業が非常に多いわけですが、本当にそれで心が耕されているかという反省もございます。

そういうことで、自分のこととして考え、議論する道徳へという方向がなされておまして、例えば、なぜいじめは起きるのかと、なぜしてはいけないのかと。止められなかったりするのなぜかとかですね。あるいは防ぐ、解決するためにはどうしたか、結果への責任はどうかというような、いじめを例としますとこういうようなことを考え議論し合う。自分だったらどうかという、そういう議論する道徳へ方向が示されてるところでございます。

一番下書いてありますが、全面実施を待たずにできるということが言われておまして、実際に——ちょっと見にくいと思いますが、小学校でありますと上から2段目の線でありましてけれども30年度からの完全実施なんですけれども、実際には前倒しで、道徳の場合できるじゃないかということで進めることができるということでございます。

教科になるとどういうことかと言いますと、評価をしないといけないということであります。しかし、これは数値化するのは非常に危険でありますので、文章での評価になろうかというふうに思います。

また、当然道徳の教科書、今副読本もありますけれども、教科書も準備されるということ

になろうかと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

武雄市はですね、どこよりも先にICT教育に取り組んでおります。

もちろん、このような情報通信技術を活用した教育も大事だと思うんですけども、いわゆるこの道徳の授業もこれから先、特に小学校中学校においてはしっかりと学んでおく必要があるかと私は思います。

そんな中で、道徳は規範意識や思いやりの心などを豊かにする人生観を学ぶことだと思うんですけども、この道徳の授業の狙い、また、期待するようなところ、再度教育長にお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

一つは、例えば今道徳でどんなことを勉強してるかと言いますと、感謝の心であるとか、相互理解とか生命の尊さ、思いやり、小学校にしても中学校にしても、そういう項目について学んでるわけでございます。

そういうことは、全く今後も変わらないだろうと。普遍的な価値として変わらないだろうというふうに思います。

状況がやっぱり変わっているわけですね。例えば、情報モラルと言われる中でもですね、あるいはいじめでと言われることの中にも道徳の価値としては変わらないけれども、社会の状況によって、どういう指導をするかというのは変わってこなければいけないだろうというふうに思っております。

したがって、新しく教科化されてもですね、その普遍的な価値については、状況を踏まえて指導をするということが極めて大事になってこようかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

本当にこの道徳というのは心の教育といいますか、今なかなか子どもたちの挨拶もですね、できないような子どももいます。そういったところをきちっと教えていただいて、もちろん家庭教育のことだとわかりませんが、そのあたりをフォローしていただくようによろしくお願いします。

そしたら、次の大項目の2つ目であります、子育て支援についてお伺いいたします。

まず、子どもの貧困対策についてであります。

これは私ごとになるんですけども、私は毎朝、子どもたちの交通誘導をしております。

そんな中で、たまに早く来る子どもがいて、その子どもたちに、きょうえらい早かったねとか、朝御飯食べてきたねと聞くことがよくあるんですね。そしたら、食べてきたよという言葉は来るんですけども、そいぎなんば食べてきたって聞くぎ、もう食事と言えないような食べ物を食べてきている子がいるのも事実です。その子にも気をつけて行けよという一言を言ってですね、私は送り出しておりますけども、なかなか挨拶もできない子もおります。毎日見とるから、私を知らないわけじゃないんでしょうけど、おはようございます、おはようと言っても言えない子もおるのも事実なんです。

そういったことを毎日思いながらいたときに、先日——これも佐賀新聞ですけど、養育困難 19%というチラシがありました。

我々は、子どもの居場所ということで、なかよし川良っ子を始めて丸1年になります。この3月ですね。子どもたちが来て、いきなり宿題をやって楽しく過ごしていますけど、ここで宿題ができるねと、楽しくできるねというなことを聞いたらですね、ここ楽しかもんね、宿題がさばけるもんねということ子どもから言っていました。本当にまだ1年ぐらいいしかありませんけども、そういう言葉を聞けて本当によかったなと思った瞬間でした。

そんな中でですね、副教育長にお伺いします。この記事、養育困難 19%とあったんですけども、内容が私よくわからないところがあったんです。それで、もう少しわかりやすく解説をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浅井副教育長

○浅井副教育長〔登壇〕

（モニター使用）おはようございます。まず最初に、なかよし川良っ子のお話もありましたけども、私実際に何度か見させていただきましたけども、まさにその地域の子どもは地域で育てるといふところを実践されているといふところで、すばらしい取り組みだなといふふうに見させていただきました。

お尋ねのあった 19%という数値だけがちょっと一人歩きしている感じはありますけれども、武雄市子どもの生活実態調査では、経済的環境だけではなくて子どもの生活環境にも着目して、子育てに困難を抱えている可能性の高い世帯というのを、家庭での養育に関して困難の高い世帯という形で判別、類型化させていただきました。

この要件としては、1つ目としては世帯年収、250万円未満。

2つ目として合意基準。ちょっとわかりにくいんですけども、子どもに対して武雄市の保護者の8割以上が、これは子どもたちに必要だろうといふふうに思ったものが、その家庭では与えられない、もしくは与えられる見込みがないといふふうに回答している世帯。

また、困窮経験というのは、ライフラインの支払いの困難経験が頻繁にあったと回答して

いる世帯です。

この結果、子どもの子育てについて、困難度の高い世帯というのは19%というものだったんですけども、この19%というものは、19%出すため、定義づけを行うためのものではなくて武雄市の実態、武雄市としてこういう子育てをすべきだということを踏まえて、そこが難しい世帯に対してどういうふうな対策をすればよいかということを知りやすくするために、じゃあそういう世帯はどういう特徴があるのかということを見極めるためのもので行ったわけです。

先ほど申しました、武雄市の子育てがどうあるべきかというところが含まれているので、武雄市独自という形になりまして、ほかの自治体と単純に比較できるものではないということをお断りしておきます。

具体的に分類するとどういうことがわかるかというところを具体的に説明しますが、医療機関の受診の状況について、この一番上が全体、真ん中が今申した困難度が高い世帯、下のところがそれ以外の世帯ということですけども。この、受診が必要なのに受診しなかったというのが18.8%ですけども、そのうちの28.9%が自己負担額を払うことができなかつたためというふうに回答しています。これは、それ以外の世帯の2.6%を比較して、かなり高いというのがわかると思います。一方、この18.8%は、困難度が高い世帯の全体からすれば5%強となり、困難度が高い世帯すべてが自己負担を理由に受診できてないというわけでもありません。また、それ以外の世帯で2.6%あるというところから、それ以外の世帯でも支払いが困難であった場合があるということになります。

ただ、この結果から自己負担額の軽減を図ることが、困難度の高い世帯の支援として、より有効だというふうに見ることができると思います。

同様に、ほかの部分も少し解説しますが、子どもの持っているもの、これちょっと見ていただきたいと思うんですけども。例えば、子どもの持っているもの、ゲーム機の割合というのはほぼ8割で変わらないという状況なんですけども。携帯電話、スマートフォンは逆に高い状況にある。

その一方で、勉強机とかスポーツ用品とか、望ましいと皆さんが考えられるであろうものについては、やっぱり厳しくなっているという状況がわかります。

また、先ほどの携帯、スマホを持っている割合が高いせいなんだとは思いますが、平日の過ごし方の中で、このテレビとかDVD、インターネットの動画や、携帯電話、スマートフォンを見るという割合が、これ3時間以上見ているということなので、かなりの時間だとは思いますが、高くなっています。

そのほかにも、朝食のところで食べないと答えている割合が、かなり高いという状況になっています。

最後に自己肯定感。先ほど、花まる学習のところでもありましたけども、実際、これを見

ていただくと割合が低いと出ている、家族に大事にされている、自分のことが好きだというものもあれば、自分の将来が楽しみというところが特段低くなってないという状況ですので、これは全体として自己肯定感をどう高めていくかという、そちらのほうがまさに大事なことではないかというところで、このように武雄市という状況の中で、この19%全部が子どもの貧困であるという議論とか、もしくはその数値が高い、低いという議論をすべきものではなくて、これを見て武雄市として、じゃあ厳しい世帯にどういう支援をしていくのか、もしくはすべての子どもたちに必要な支援って何だろうかというところを考えていくために分析をしたものという形でおります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

いろんなアンケートもとられたようであります。

この結果を踏まえてですね、武雄市として今後どのように進めていこうと思われるのか、再度、副教育長お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浅井副教育長

○浅井副教育長〔登壇〕

先ほど申しましたのに一部重複しますけども、武雄市としては、この一部の子どもを対象にすべきもの、あとはすべての子どもに行っていくべきものというのを踏まえて考えていきたい。

それによって、経済的支援だけではなくて子どもを取り巻く家庭環境、もしくは生活習慣というのをどういうふうに改善していったらいいかというところを踏まえて、子育て上、子どもに対してよくない影響をできるだけ軽減していく、そのために行政としてどういうふうにしていくかと。そういう観点から、子どもの未来応援計画というのを策定させていただきたいと。

この計画では、国とか佐賀県の計画も踏まえているんですけども、武雄市の特色というふうな形では、子どもに寄り添う伴走型支援というのを掲げさせていただいておまして、それ以外にも教育や学びへの支援、もしくは生活養育環境の支援、就労、経済的な支援と、4つの柱を掲げて総合的な推進を図っていききたいと。それによって、子どもたちが夢と希望を持って未来を切り開けていけるように取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

今、副教育長が、施策の取り組みの中で武雄市独自の伴走型支援という言葉が述べられま

した。

小松市長に伺います。この伴走型支援というのはどのような支援なのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

子どもたちは、成長段階で支援者が変わっていくと。一番わかりやすいのは、担任の先生が、極端な話、毎年変わっていくというのがわかりやすいと思っています。

やはり子どもたちにとって大事なのは、いつもだれかに見守られているという安心感であったり、いつも頼りにできる人がいるという信頼感だというふうに思っています。

それがですね、親がそういう役割というところはやはり大前提なんですけれども、やはりそこをサポートするという意味で、妊娠、出産期から進学まで、一貫してこども笑顔コーディネーターというのを設置いたしまして、保健師と教員OBがチームとなって、ずっとその子に寄り添って伴走して支援をしていくと。それによって、先ほど申し上げました安心感とか頼れる信頼感、そういったものをずっと感じながら成長していくことができると。そういうふうな仕組みであって、ぜひこれは武雄市が全国に先駆けてモデルとしてスタートさせたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。

これ、我々が今行っているなかよし川良っ子なんですけれども、こういったことも今後、地域、学校ですね、連携しながらやっていきたいと、継続していきたいと思っております。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

安全安心のまちづくりについてでございます。通学路の確保についてであります。

最近、登校時の列に車両が突っ込むというような交通事故をよく聞くようになりました。

ちょっと事件事例を見てみますと、平成28年10月には神奈川県横浜市で軽トラックが登校中の列に突っ込み、小学校1年生の男の子が死亡と。それで7人が重軽傷を負ったという事例ですね。

そして平成27年5月には、大阪府豊中市で乗用車が登校中の列に突っ込み、児童6人が重軽傷、1人の方が意識不明の重体というふうな事故ですね。

そして身近なところなんですけれども、平成27年11月には佐賀県小城市で乗用車が登校中の列に突っ込み、女の子4人が重軽傷を負ったという記事です。事故です。

そういったことを含めてですね、ちょっと武雄小学校の通学ルートを見てみました。どう

いったところから、どのくらいの児童が登校しているのかなというのを確認したんですけども、一番多いのが川良方面、元市民病院があったところを下ってくる子どもたちが約120名。そして、円応寺のほうから下ってくる子どもたちが約75名。それと八並方面、ここは車両が一方通行ですね。7時から8時半までが一方通行になっておりますけども、ここを通ってくる子が約100名。それと、西浦・内町方面から来る子どもたちが約60名と。それと、八並・内町方面から8人ぐらいが来て、約360人ぐらいが登校しております。

そんな中で一番狭いところ、多く通ってる子どもで120人ぐらい通ってるんですけども、これが川良区の狭いところの通学の状況です。

これは雨の日だったんですけども、こんな格好です、歩道もないようなところを毎日通っております。これも川良方面ですね。

そして、これが円応寺から下ってくる道路です。ここは今、時間制限を設けて通行制限できないかを検討してる通学路の一部です。これもそうですね。幅員が3メートル50センチぐらいしかありません。車2台が通行、離合できないような状況の箇所です。

そこでですね、ここは子どもたちが一番多く通る市道の館甘久線という道路です。道路幅員が4メートルほどしかないんですけども、歩道の設置ができないかという、まず要望です。近くの方から、歩道のできんやろかとか、雨降りにはちょっと危なかもんねという言葉をよく聞くように最近になりました。そこで、歩道設置がまずできないかどうかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。今、議員指摘の市道館甘久線でございますが、新たな歩道の設置を設けるといたしますと多額の事業費等がかかります。

現時点での歩道設置の計画はございません。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

確かにですね、家屋等があつて費用がかかるかもわかりません。

しかし、子どもたちの安全を確保するためにはどうしても歩道設置をお願いしたいところなんですけども、どうしてもできないということであればですね、これはちょっとほかの事例です。

これ多久市の事例ですけど、外側線、白い線の外側に歩道というような明示をですね、着色の舗装——カラー舗装等ができないかなと思ったところなんです。こんな感じで両サイドに着色すれば結構、車道が狭くなるかもわかりませんが、どうしてもだめということであれば片側でもこういった着色舗装、カラー舗装ができないか、そのあたりのところ提案したい

と思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

現在、歩行者は道路交通法上、右側通行ということになっておりますが、路肩の幅が 75 センチ以上あれば、警察に確認いたしましたところ、左側通行でもいいという回答をもらっております。

現地を確認しましたところ、路肩幅が約 90 センチ程度ある箇所もございました。それで、その場所は歩行者は左側を通行してもかまわないということでございますので、カラー塗装については歩行者への周知、車両への注意喚起等に有効な手段だと思われまますので、この場所に限らず、通学生が集中する箇所については経済的な方法を模索し、計画的に進めたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員

○4 番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。このようにたくさん子どもたちが、朝の通勤時にこの狭いところを現在通学しております。この 120 名通る通学路と、この円応寺から下ってくるところです。ここは本当にできるだけ早目に対応していただきますようお願いしておきます。そして、子どもたちが安全に通学できるようにですね、ぜひよろしくお願ひします。

それでは最後の質問に移らせていただきます。

これは平成 24 年 9 月議会でも質問をさせていただきました。市道平原梅林線の通路橋、市道をまたぐ通路橋のことを質問させていただきました。

それからもう約 4 年半が経過しておりますけども、この腐食がだんだんひどくなって、激しくなってますね、ちょっとほんと大丈夫かなというふうなことをですね、ここ下を通る方は不安に思われる方がおられます。

それで、その後 4 年半たちましたけども、その後どういうふうになっているのか、担当部がどのように対応されているのか、まずお伺ひします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

静かに。

○古川まちづくり部長〔登壇〕

その後、何度となく占有者をお願いをしてきたところですが、点検補修等の実施はなされておりましたので、平成 28 年 11 月に再度所有者の方にお会いいたしまして、使用されないのであれば撤去も検討してもらえないだろうかとお願ひしたところでございます。

所有者の回答はですね、占有物件は現在使用していないが、隣接する建物に現在2名の方が使用中でございまして、寮を撤去する時点になれば一緒に撤去を考えたいということでございました。

それで現在のところ、いつ撤去できるかは約束できないという回答をいただいております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ここは市道、市が道路管理者なんですね。それで安全点検、安全の確認をまずしていただかないと、撤去とかという言葉にはなかなかならないわけなんですけど、ほんとに安全、道路管理者としてぜひ点検をまずしていただく、これは道路橋の一つの通路橋ですけども、道路橋の点検マニュアルに基づいて早急に点検をまずしていただきたい。

そして、皆さんが安心して下をくぐるようにしていきたいと思いますが、市長どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

安全性の確認や維持管理については占有者の義務でございまして、市での点検等は考えておりません。

今年2月に再度お伺いいたしまして、物件の安全点検をお願いしたいと応対したところ、所有者としても安全点検は必要だと考えているとの回答をいただいております。

それで、今後も点検の方法や調査会社等の紹介等含めですね、安全確保ができるよう連絡調整に努めてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

今言われたように点検の方法等はですね、またコンサルさんの紹介とかそういうことをきちっとしていただいでですね、早目にまず安全であるということの確認をお願いします。

それでこれから先ですね、台風とか地震もいつあるかもわかりません。そういったことで安心してここを通行できるようにですね、早目の点検をお願いするような指導をぜひやっていただきたいと思います。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で4番山口等議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10分程度休憩をいたします。

休 憩 9 時51分
再 開 9 時59分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次に、21 番松尾初秋議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、21 番松尾初秋の一般質問をさせていただきます。

質問は7項目用意しております。執行部の答弁は簡潔で正確にお願い申し上げます。

まず、ごみ袋についてであります。

市民の方からプラスチックの分別を行うのが大変だという声を聞いているわけですが、プラスチックを含めですよ、ごみ袋による選別はどのように行われているのかを確認の意味でお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

ごみの分別でございますが、可燃物、不燃物、かん類、びん類、ペットボトル、プラスチックの6種類を市の指定袋で分別収集しております。

可燃ごみと不燃ごみは、西部クリーンセンターで焼却、破砕等の処理を行っております。かん類、びん類とペットボトルは、武雄市リサイクルセンターで中間処理後、事業者へ委託してリサイクルされております。プラスチックについては、中間処理を業者に委託し、容器包装リサイクル協会を通して約30%が再商品化、あとは燃料化のほうの主になっております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

ここに資料がありまして、武雄市のクリーン通信ですかね。資源を大切に、ごみ袋分別、必要性、そういうふうで、ここにプラ容器とはということちょっと書いてますよね。家庭から出るごみの約60%を占めるのが容器、包装ごみといわれていますと。そのうちの多くを占めるのがプラ容器と呼ばれているものですと。プラ容器とは、商品が入っていたプラスチックでできた容器と包装、包んでいた包装のことをいい、商品を消費したり取り出したりしたときに不要になるものですと。プラ容器をごみとして燃やさずにきちんと分別して、資源としてリサイクルしていくことがごみの減量、環境保護につながるということが書いてありますよね。

これ聞いた話ではですよ、私もようわかりませんが、汚れたのをまず水洗いしてから、それから乾かして、乾燥させてから出すということで、これ市民負担も大きいわけですよ。市民負担が大きいという話も聞いております。

そういう中で、もうこの売却益どころかその処理費のほうが相当かかって赤字だというふうな話を聞いておりますけども、質問になりますけどもその辺はどうなっているのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

容器プラスチックのリサイクルの経費でございますけど、年間 160 トン程度の処理費として、630 万円程度かかっております。売却益はございません。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

160 トンで 630 万ですかね。自分の考えを言うんですけどね、今回ですよ、今回というかもう 1 年ぐらい前に、伊万里にさが西部クリーンセンターができたわけでございます、ここはストーカ方式ですよ、燃やすんじゃないけど溶かすんだけどね、そういうふうな感じで、蒸気で電気を発電してるということもありますので、可燃性は高いですよ、プラごみなんかはもうどんどん燃やして、コークスも減ると思いますのでね、どんどん燃やして熱エネルギーとして利用して発電したほうがよっぽどよかっちゃうなからうかというふうに思います。

リサイクルの意味で考えた場合、プラ容器を燃やさずに分別して資源にする、プラ容器を燃やして電気資源とする、いっちょん変わらんとですよ。同じなんですよ。プラ容器を燃やさずに分別して資源とするのとですよ、プラ容器を燃やして電気資源とするという。私はそういうふうに同じだと思うわけですよ。そのリサイクルという意味で考えた場合ですよ。

質問になりますけども、プラ容器の分別をやめて可燃ごみとして、もう燃やすように出して、可燃ごみとして出すようにすべきだと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

容器プラスチックをさが西部クリーンセンターで焼却した場合、年間約 30 万円程度の発電量の増加が見込まれるということを聞いております。

今後、ペットボトル以外のプラスチック類については、佐賀県西部広域環境組合でも協議されておまして、可燃ごみとして焼却することを検討してまいります。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

その検討というのは出す方向での検討だと思いますので、そのように進めていただきたいと思います。

次に、情報公開についてでありますけども、ちょっと新聞読ませていただきますけどね、これ佐賀新聞。平成 28 年 9 月 27 日の新聞で、議事録の公開請求者名を議長が市議にもらすということで唐津市のお話でございまして、唐津市議会の田中秀和議長は 26 日、9 月の話ですけども、市民から委員会議事録の情報公開請求があり、請求者の氏名と請求の内容を 1 人の市議にもらしていたことを公表したと。田中議長は、市民の知る権利をおかす行為だった、開示請求された方に申しわけないと陳謝したということで載っております。

そこで、武雄市のやり方としては——ここに開示請求書がありますけども、質問として、市民から開示請求があった場合、どのような取扱いをされておるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

（モニター使用）モニターで御説明を申し上げます。

これがちょっと見にくいですが、現在の開示請求の請求書の様式でございます。これに必要事項を——この赤字で示しておりますけども申請者、それから申請の内容について記入し、窓口であります総務課に出していただいております。

それで、この赤字部分を書かれた請求書に、総務課のほうで受付をしましたということで、このブルーの、受付をしたということを書き込んで、その申請書の写しを総務課で保管して、原本については担当課に渡して処理をしてもらっているという現況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

ここから私の提案なんだけども、これはもう教える必要なかですもんね。隠してよかつちやなかろうかなと思うわけですよ。実はこれは何も関係なかですもんね。

武雄市の場合ですよ、何人もとっていますよね。この武雄市情報公開条例の中の 5 条の中では、何人もこの条例に定めるところによって、実施機関に対して当該実施機関の保有する公文書の開示を請求することができるというふうになってますので、これをわざわざその担当課に教える必要なかですもんね。これ隠してよかつちやなかかなと思うわけですよ。

それはやっぱり地方公務員法で秘密を守る義務ちゅうのはあるですよ、確かにね。職員は職務上知り得た秘密をもらしてはならないってなっとうばってんですよ。わからんぎしゃべ

りようがなかわけですよ。だから私はですよ、ここはこうしますけどね。ここを消して、消してその担当課のほうに渡していいんじゃないかなと思うんですけどもこの点どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

御指摘ありますように、この様式を先ほどの形で担当課に渡しておりますが、やはりそのまま渡すことによって安易に第三者の目に入ると。また、知らんでいいような情報まで目に付くということの弊害を防ぐために、そういった形で市長部局については、その請求者名をふせて担当課へ渡したいというふうに思いますが、議会とか行政委員会宛てについては、議長や委員長名で開示、不開示の決定を行う必要がありますので、それにつきましてはこれまででのとおりにさせていただきたいというふうには考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

やっぱり世の中はですよ、ほら、今なんやったかな、小池知事やったかな、見える化ですよって、これ見えない化がよかですよ、見えない化。

それですよ、今は行政委員会ですかね、議会とかはやっぱりそのままにしたいということですけども、ちかっと気ばつこおてですよ、ここにシールのあるですもんね。シールのごたあとばペターとこう貼ってですよ、ちょっと貼ったとばつくったとですけどね。その取扱注意ってぺたぺたぺた貼って、そして出せばどがんかなと思うわけですね。そういうふうなやっぱり配慮が、なるべく人に目につかんとですよ。この配慮はすべきだと思いますけども、シール貼る件どうですか、貼りますか。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

先ほど御提案ありました情報の取り扱いについては、さらに安易に第三者の目に触れないような形で、それも含めて検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

貼る方向で検討するということですね。いいですね、それで。

〔北川総務部長「はい」〕

はい、わかりました。検討もいろいろあるけんですね。貼る方向で検討するということで、わかりました。とにかくですよ、そういうふうに取り扱ってください。

それと、私はちょっと聞くとところによるとこの情報公開条例にですよ、直接担当課にいつて請求しよんさあもんのおんさあていう話も聞いたわけですよ。

だからやっぱり窓口は総務課なら総務課に、やっぱり絶対これ一本化せんばいかんと思ひますけども、この点についてはどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

基本的には総務課で受付をしております。

以前ですね、1回請求をして2回目、3回目というときの2回目のときにですね、直接担当課に行つてたという事案がありました。

これについても把握をしてなかつたという状況になりますので、今後につきましてはその請求状況を的確に把握できるように、総務課のほうで一括して受けていきたいというふうを考えております。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

いずれにしても、こういう個人情報に関係するところだから、これはやっぱり一本化せんばいかんとですよ。だからそういうふうな取り扱いを徹底してくださいね。

次に、新幹線についてであります。速かですね、いつもね。

実はね、平成28年10月に朝日町と北方町で複線化の説明会があつた折りですよ、こういう話を聞いたわけですよ。

要するに線路のかさ上げによる冠水対策を行わずですよ、行わずするという話だったんですけどもこれに間違ひないですか。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部理事

○千賀営業部理事〔登壇〕

おはようございます。先ほど議員さんがおっしゃいましたとおり、昨年10月に開催されました複線化事業に関する説明会の際には、線路かさ上げなど冠水対策については示されておひません。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

なんば考えとるんでしょうかね。大体常襲水害地域ですよ。皆さん、前回の私の質問を思い出してください。あのときですよ、水に浸かつても進む新幹線を本当にまともに考えてる

んでしょうかね。そんなことはないでしょうね。

私は思いますけども、やっぱりもうこの山陽新幹線乗り入れですね、このことから考えていくとフリーゲージトレイン、これできてもスピードがあんまり出ないので、今でもJR西日本は難色を示してるわけですよ。

それにですよ、これ何も考えない、この対策を考えんでそのまま線路をふやすと。もう全く私は、JR九州はもうその山陽新幹線の乗り入れ諦めてるとしか考えられんとですよ。普通の川というか河川とは違うんですよね、感潮河川ですよ。潮の満ち引きで条件が悪かったら絶対、それは溝ノ上調整池ができたといえども一時的には絶対浸かるとこなんです。いろいろな条件が重なれば。それに、このダイヤが乱れたら全部に影響するとですよ。そして、その対策も何もせんと。ならもう諦めたと言わざるを得んと思いますけども。

質問として、JR九州は山陽新幹線の乗り入れをもう諦めてるとは思いますが、どがん思うんですか。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部理事

○千賀営業部理事〔登壇〕

最終的にはJR側とでの調整後の判断になると思われませんが、市としてはその支援についてはわかりかねるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

それはわからんかわからん。想像はつくですたいね。想像力はだれでもあるけんですよ。どがん考えても今でも難色ば示しよんさあとですよ、スピードの問題で。それなのにこの対策はなんもせんで、乗り入れんさあわけなかじゃなかですか。私はそう思います。

ちょっと話を進めますけども、今後武雄のほうにリレー方式で新幹線が来るとは思いますけども、ここにちょっと新幹線の資料をいただきました。でね、ここにあるんですけども、これですよ、いろいろあるとですよ、700系とか800系とかN700系とかですよ。もうとにかく世にあるとですよ、E6系とか。もうこれ説明すれば時間が大分かかりますけども、もうとにかく相当な数の新幹線の車両があるとですよ。

そこで質問として、リレー方式を導入して平成34年に暫定開業するわけでしょう。そのとき武雄長崎間を走る新幹線の車両は決まってるんですか。お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部理事

○千賀営業部理事〔登壇〕

JR九州に確認しましたところ、運行車両や運行本数についてはまだ決まっていないとい

うことをごさいました。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

私今度こう思うんですけど、これSL人吉号です。これヒントなんですけども、こういうふうな発想で、これどがんかなと思うとですよ。ゼロ系に会える長崎新幹線、武雄発。この新幹線に輝かしい光をあてようじゃないですか。光をあてる、そういうふうに思いますけども、まあいずれにしても武雄の観光浮揚を。鉄道マニアがやっぱりわざわざこれに会いに来ると思うわけですよ。武雄に泊まってですよ。長崎を往復するとかですよ。

そしてまた、JR九州さんも収益のことは考えますよ、いろいろな七つ星とかいろいろしよんさあですたいね。そいぎこいばすつことによって収益増にも拡大にもつながると思いますけども、いずれにしてもですよ、この件についてJR九州に申し入れていただきたいと思えますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

発想として非常におもしろいなと思っています。

ただ、残念なのはゼロ系が今走ってなくて、博物館に展示をされてるところがあるのかなと思うんですが、発想としてはいいですし、鉄道ファンってたしか200万人ぐらいいるんですよ、全国にですね。

ゼロ系以外にも100系とか200系、500系いろいろありますんで、ここは沿線5市でも、とにかくみんなが乗っておもしろい、楽しい車両っていう話を今していますので、そこはですね、できればゼロ系に会える長崎新幹線ということで要望していきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

いずれにしても、そういうふうなとばすればいいのかなというふうに私も思いますし、もちろんSLも走っとらんとばですよ、博物館かなんか展示したとば持ってきながらですよ、そういうふうにしたと思います。人吉号だってね。

だからですよ、そのゼロ系はどっかからが連れてきてというか、持ってきて走らせれば、やっぱり収益増も、JRさんの収益増にもつながるでしょ、武雄の観光浮揚になってつながっていくというふうに思います。

それで最終的にもう一個聞くんですけども、あとはこのリレー方式ですね。リレー方式が34年の暫定開業ですかね。でね、もう私いろいろ言うんですけども、私はフル規格の話もしまし

たよね。それでずっと考え変わらないのもいいですよ。でもやっぱりその臨機応変に変えていくことも大事だと思うんですよ。確かに、そのフル規格の場合国の直轄ということでしてくれてスキームが変わればいいですよ。でも今のままじゃ私無理だと思います。

それで結局、私はこの武雄に 100%とまる、このリレー方式これこそが、武雄の観光浮揚に私はつながると思うわけですよ。

実はここに新聞記事がございまして、これは平成 27 年 11 月 14 日の新聞ですよ。佐賀県の統計人口ちゅうことで前年度比、鳥栖、江北のみが増加していると。鳥栖が 237 人ですかね、江北が 43 人。

でね、ここで言えることは何なのかって。交通の要衝ですよ、分岐点。

じゃあ武雄もですよ、そのリレー方式で、1 時間に 3 本、まあ 2 本から 3 本ぐらいとまるでしょう。分岐点ちゅうか、もう要衝になるわけですよ、要衝に、交通の要衝に。

だから私はこのリレー方式の固定化を求めるですよ。やっぱり期成会ばですよ、武雄って言い出してつくるべきだと思うんですけども、この点についてはどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部理事

○千賀営業部理事〔登壇〕

議員さんがおっしゃいますとおり、リレー方式の場合全列車が武雄温泉駅に停車するという意味では交通の要衝ということもございまして、利便性を高めることになると思われます。

しかしながら、もう一つの利便性であります高速性、あるいは関西への乗り入れの件、この実現にはやはり全線フル規格が欠かせないところというふうに考えております。

市議会におかれましても、国や県に対して全線フル規格を求める意見書を提出していただいておりますし、市内各種団体の代表者からなる武雄市新幹線活用プロジェクトにおいても同じく要望活動が行われているところでございます。

これらを踏まえて、市としても引き続き全線フル規格に向けて、国・県、JR九州等と意見の交換あるいは要望活動に取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

世の中動きようけん、変化も大事かとですよ、変化もね。私は一番最初にフル規格を言いよったですよ。皆さんが言わんとき私が一番言いよったばってんね、よくよく考えてみてくださいよ。これ国のスキームが変われば別ですよ。変わらんなら、これ無理ですよ、はっきり言って。だれが負担するんですか。あなた達要望活動してですよ、じゃあ地元でしてくださいと言われたらできんでしょうもん。だから私はこの全線が停まる、フリーゲージよりもこのリレー方式の固定化、もうこいよいよかとはなかとですよ。

フル規格が通って、まあフリーゲージでもそうでしょう。通ってでも武雄を通過するだけの線路で、列車だったあたら意味なかですもんね。100%とまる、私はこのリレー方式の固定化が、武雄にとって一番すばらしいと、自信と確信を持って訴えているわけですよ。もうこれ以上言いません、はい。

次に、競輪事業についてお尋ねをしていきたいと思います。

競輪ですけれども、リニューアル後に 66 周年記念ですかね、されたんですけれども、イベントをされたんですけれども、まあ確認の意味で聞きますけれどもどのようなイベントをされましたか。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

おはようございます。松尾議員にお答えをします。昨年 11 月 12 日から 4 日間、開設 66 周年記念を開催したところ、ここにおられる市議会を含め多数の御来場、来られました。（「そうだったのか」と呼ぶ者あり）入場者は 7,900 名、4 日間で。一昨年より 10%増ということでふえたところです。

議員御質問のイベントについてですけど、現在のメインスタンドの駐車場を、今は駐車場としてますけど、そのときはイベント会場に変えて従来のお客様をターゲットとした競輪予想会、それに競輪選手のトークショー、それと新規お客様をターゲットとしたキッズイベント、爆笑ライブ、B級グルメ等を実施いたしております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

実はそんなとき結局、そのいつも来られる常連さんですね、まあ本客さんみたいなものでしょうね。その人たちが、ちょっと車とめるとこもなし、困んさったちゅう話なんですよ。

だから、今後イベントをする場合ですよ、それはイベントは大事だと思いますよ、してもらっていいと思いますけども、場所とか開催の時刻ばらすとか、いろいろなことを考えてですよ、やっぱり本客さんが困らんごとやっぱりしてほしかなというふうに思うんですけども、この点についてはどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

議員御指摘の記念競輪開催中の駐車場については、さまざまな意見があることは把握しております。

ただ、新規のお客様にも、やっぱりゆっくりイベントを楽しんでもらうという意味でも、

今回メインスタンド駐車場を封鎖してイベントとして開催しました。

今後はですね、敷地が限られるわけですから、その状況の中で時間等々の調整をしたり、その解消に向けて研究したいと思います。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

いずれにしても工夫してください。

次に、議事録を読んでいきたいと思いますが、これは平成 28 年 9 月議会の市長の演告でございまして、10 月にいよいよ競輪場がリニューアルオープンしますと。新たな競輪場は競輪ファンの皆様にとって、より使いやすい施設となることに加え、インバウンドに対応した観光施設としても活用してまいりますというふうに書いてあります。

ここで言うインバウンドですよね。インバウンドと言うたら外国のお客さんという意味なんだけど、入ってくるお客さんという意味なんだけども、まあおそらくですよ、確認の意味で聞きますけども、ここで言うこのインバウンドのお客さんちゅうとはアジアのお客様を指して言われたんじゃないかなと思いますけども、どうですかねその辺は。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おっしゃるとおりでアジアのお客様、特に競輪だと韓国からのお客様がメインだというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

特に韓国だということで答弁いただきましたけどもね、実はこれはボートレース福岡、競艇場ですね、ここは多言語対応の自動発払機があるとですよ。英語とか韓国語、今、市長さんが言いんさった韓国語ですよ、中国語もありますよ。11 カ所に発払機 11 台導入。こがん感じでですよ、これで選べるっですよ、ぺたっってこう押すわけですよ。英語、韓国語、中国語ですよ。多言語対応自動発払機ですね。こういうのがありますけども、武雄競輪場はこういうのありますか。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

（モニター使用）お答えします。武雄競輪場に今の多言語対応の機械についてはございません。（発言する者あり）

ただ、今現在、これ以前にも示したかと思いますが、場内の誘導案内サインについては一応多言語、英語、韓国語という部分でインバウンドを意識して対応をしているところです。

また、機械もありますけど、何せ機械が、自動発払機については、約 600 万という部分がかかる、開発も含めた韓国語対応となるともう少しかかるという部分で、現段階ではこのモニターのような韓国語対応の補助シートというものを今、準備が終わったところです。それで機械については現段階では考えておりません。今後、売上等の収益、海外のお客様の動向を見ながら、また検討していきたいと考えております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

まあ機械高かけん、ちょっと考えとらんちゅうことでわかりました。まあなんか、シートで、なんかな、こう買うシートかな、声で対応するちゅうことで今答弁を受けましたけどもね、まあいずれにしてもインバウンド対応ちゅうので口ばかりじゃやっぱいいかんですもんね。どんどんどんどん行動に移さんばいかんと思いますので。そいで実はまあインバウンドということの話なんですけども、競輪事業所として海外に足ば運んでですよ、旅行会社などに営業を私はずべきだと思いますけども、そういうのしてますか。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

直接、現地に行っのセールスは行っておりません。

ただ、観光施設としてですね、競輪場を含めたツアーセールスというのは現在実施しているところです。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

やっぱりそがんついでんごた対応じゃいかんですもんね。ついで対応じゃですよ、やっぱりそこまでね、インバウンドば頑張りますということやったけんですよ、そういうふうなことを市長も言われてますのでね、やっぱり今後は議会と一緒になってもよかけんですよ、海外の旅行会社に行っですよ、私共も一緒に行こうじゃないですか。

そいでその営業までやっぱりせんばいかんと思うんですよ。そがんですよ。なんかついでんごとして、なんかのついでに抱き合わせたごた感じでしちゃあですよ、そいじゃだめだと思っんですけれども、まあこれももう答弁求めませんけども、そういうのはね、やっぱり必要じゃありませんかね。よろしくお願ひします。

次に、庁舎についてであります。速かですんねいつもね。

新庁舎の防音対策は大丈夫だろうかちゅう話なんですけどもね。今現庁舎の話ばするぎですよ、実はですよ、この私ごとの話なんだけどもね、例えば委員会室でしゃべりようわけですよね、こうこうこう。隣の委員会室からですよ、松尾議員さんって、隣のテーブルに入りますよと言われるわけですよ。なんやそりゃって。もう私はですよ、もう叫んだりですよ、おめーたいしようわけじゃなかとですよ。普通にしゃべりよう。確かに人様よかですよ、人様よかそりゃ周波数は高かかもわかりませんよ。それは私は認めましょう。でも、おめーたいですよ、叫んだりしたわけじゃなかとですよ。それなのにいつもですよ。何回となく私はクレーム言われましたよ、隣の部屋から。隣の部屋におるとですよ。次の部屋から言われるとですよ。もう本当に私はなんば言うとかって思いますよ。これはやっぱりね、この庁舎の構造が私は悪かて思うとですよ。今、現庁舎ですよ。

そこで質問ですけど、私の声が高いのが悪いのか、庁舎の構造が悪いのかどちらが悪いと思いますか。（「声の高かたが悪かて言え」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

議員御指摘の点につきましては、現在の庁舎会議室の構造に起因するものだというふうに思っております。

〔21番「市長、答弁ないですか」〕

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今の平川部長の声が非常に穏やかに聞こえる感じですけども。ほかの方の声がですね、隣で録音されてないっていうのは多分大きいか大きくないかと言うと、多分声は大きいんだろうなというふうに思っています。

ただ、大きいからといってですね、それが悪いことかかっていうとそうでもないもので、あれですね、会議室が悪いと、設備が不十分というふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

立派な答弁ありがとうございます。

では、新しい庁舎の防音対策は大丈夫かという質問ですけども、どがんですか。まだできてないんだけど。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

新庁舎につきましては現在、庁舎の課題点、問題点、こういったものをきちっと整理をし、その対策もとるといふふうに考えております。

当然、会議室の遮音性、これについては高い構造としたいといふふうに考えて現在施工しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

遮音性はより高くお願いします。

次に農政であります。速かですね。

地元の話をするんですけども、暗渠排水の件ですね。こういうもう排水がきかなくて、えらい私は怒られるとですよ。初秋言うとか、役所に言うとか、いっちょんきかんぞって言われて何回かおつなぎしたこともありますけども、もうひどいんですよ。排水がきかんとかですよ。

写真がございまして、こういうふうになんか水がたまるとのわけですよ。水のたまるとつとですよ。見てくださいよこれ。ぐちゃぐちゃですよ。ここに排水の普通あるでしょうが、もう水の流れよう形跡がなかとですよ。全然、ききよらんとですよ。ひどいんですよ。

質問なんですけども、これは平成 25 年から 26 年ぐらいにした暗渠排水事業だと思いますけども、今回そういうことですよ、裏作をつくられんやっただけですよ。つくることができなかつた。質問なんですけども、全体の工事量とですよ、そういうふうな麦などの裏作がつけられなかつた割合といひましようかね、そういうのはどのぐらいですか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

現在、暗渠排水の工事といたしまして、24 年度から 28 年度までに約 290 ヘクタールを整備する計画でおります。全体計画としては 343 ヘクタールありまして、現在 290 ヘクタール終わっていると。残りが 50 ヘクタールちょっとあるということでございます。

工事箇所のみ把握はできておりませんが、麦の作付全体面積を平成 27 年度と 28 年度で比較しましたところ、武雄市全体で約 5% 少なくなっていると。議員さんが言われました花島地区においては約 45% 少なくなっているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

私の地区で 45% もあるぞ、それはだれでも私に言いんさあでしょうね。どがんたつとつと

かって、ごっつい言われるっとは私ですよ。私はよく言われるんですよ、なんとかせんかって。

でね、やっぱり290ヘクタールのうち5%ですね、私の地区、花島地区で45%もこういうふうにゆるかってですよ、戻しますけども、こういうふうにゆるかって裏作ができなかったということですね。

質問としてですよ、原因何ですか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

麦の作付ができなかった原因といたしましては、稲刈り後から麦の作付時期までの間に雨が大変多かったためだと思われます。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

雨の多かとはば排水する事が事業でしょうもん。そがん答弁のあんもんですか。雨の多かったですもんねって、おかしかでしょうもん。雨水が田んぼに入ったとがですよ、排水すつとが事業でしょうもん。そうでしょう。

そいでですよ、その答弁が、全体がつかられんないよかですよ。一部、5%、45%がつかれないわけでね、それ全部がされんないそがんでしょ。雨のそりゃあもうひどう降ったですもんねって。でも5%とか、45%とか一部ですよ、つかられんやったとは。だからそういう答弁はなかと思ひますよね。雨が降ってですよ、ゆるかとはばすつとが排水事業でしょうもん。

でね、百歩譲ってあなたたちの答弁がね、だとするならばやっぱりその雨の量を想定できなかったミスですよ。その、それに伴ってですよ、それに伴う工事ミスでしょうね。もつとふとかとはば入れとつたらよかったとかですよ、しか考えられんですよ。もうこれ以上ですよ、言うたつてもう水掛け論ですよ。何ですか原因はって、雨が多かつたつですもんねって、そがん答弁はなかですよ、はっきり言つて。

確認で聞くんですけども、これ暗渠排水事業って国の補助事業ですよ。でね、これ事業後5年間は絶対裏作はするといふ条件がついとつたわけですね。でもこういう状況ですよ。つかられんとですよ。

これね、これに対して普通ならペナルティーか何か罰則なんかあると思ひますけども、この場合どうなりますか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

今回のような、気象により作付ができなかった場合については罰則等はございませぬ。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

まあそれは当然でしょうね。

私ですよ、これ言いたいのはね、もう排水がきかんで麦なんかつくられんやっったときは、収入減ですよ、つくられんでですよ。個人補償すべきだと思いますけど。個人補償してください。質問です。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

個人の収入についての補償はありません。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

まあ個別補償、個人補償ですね、まあまあ無理だとわかっていながら私は質問をしたんですけどもね、もうこういう人たちはそういう気持ちなんです。個人、個別補償をしてくださいというそういう気持ちですよ。そういうのを私は言いたかったので今、質問をしたんですけどね。

じゃあ現実の話をしたいと思いますが、迷惑をかけた地区には今後出るであろう農林の補助事業を優先的に、補填という意味ですよ、優先的に持ってきてくださいよ。持ってきてますか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

今回のような地域につきましては、対象となる補助事業等がございましたら優先的に御案内申し上げます。（「そがん話のああとですよ」と発言する者あり）

〔21 番「そがん話のああとですよ」〕

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

それはやっぱりこの辺ぐらいしか許されると、この辺がぎりぎりだと私は思いますよね。案内してくださいよ、優先的に。そういう話があるんです、やっぱり。そういう話してください。本当は個人補償ですよ。個別補償せんばいかんぐらいの案件ですよこれは、本当に。

次の質問に移りたいと思いますが、次はカジノ法制定と武雄の観光についてであります。

実はカジノを中心とする総合リゾート施設、I R法がやっと平成 28 年 12 月 15 日に成立したわけですが、質問といたしまして、私がカジノ関連の質問を以前数回したと思えますけども、このことを覚えてますか。記録されてますか。どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

おはようございます。確かにですね、松尾議員さんからは何度もカジノにつきまして御質問をいただいているところでございます。

古く議事録をさかのぼりますと、平成 14 年 12 月議会で産業常任委員会で熱海のほうにカジノ構想について行政視察を行ったということに触れられまして、そのときにカジノこそが観光浮揚の切り札になると確信してるといふ、議員さんの発言がっております。また、平成 21 年 3 月には西九州観光戦略シンポジウムに参加をされたことに触れられまして、平成 21 年 9 月議会ではカジノ特区について御質問をされております。

そのあとおっしゃいましたように、昨年 12 月にカジノ法案が成立したわけですが、そうしてみますと議員は、先見の明を持って御質問をされたのかということで振り返っておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

実はちょうど新聞記事がございまして、佐賀新聞、ことし 1 月 11 日のですよ、九州企業トップに聞くということで、2017 年ハウステンボス澤田秀雄社長、カジノ施設 20 年にも整備ということで、2020 年のことは 3 年後の話だと思えますけども、まあ内容を読みますよね。

「長崎県佐世保市の大型リゾート施設ハウステンボスの澤田秀雄社長は法整備が整えば」っちゅうことで、まあ大きな法は通ってますよね。ただ、あと今後 1 年以内に実施法が通ると、そういう意味だと思えますけども、法整備が整えば東京五輪が開催される 2020 年ごろにはカジノの施設を建設すると、目標を共同通信社のインタビューで示したと。県や市と共同で誘致を目指すということが載っております、日本で最初にカジノができる可能性があると。「既に用地を確保しており既存の園内施設とあわせて速やかに総合リゾート施設 I Rを整備する構えだ」というふうに載っておりました。

そこですよ、私は新聞で御紹介をいたしましたけども、これ以上の情報を持っておられますか。持っておられたら御紹介を願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

武雄市はですね、これまで周辺の自治体とカジノ誘致協議会設立に向けて勉強会に参加をいたしましたり、それから実業界を含めた組織の西九州総合型リゾート研究会というのがございますけども、こういった定期総会にも参加をして、情報収集を行ってきたところでございます。そしてまた、これまでもですね、ハウステンボス周遊観光協議会に加盟をいたしまして、ハウステンボス周辺の9自治体とともにPRイベント、ツアーバス運行等の事業を行ってまいりました。

そうした中、先ほどおっしゃっていただきましたように、長崎県と佐世保市が平成26年3月に協同でIR推進協議会を設置されてですね、カジノを含んだ総合型リゾートを導入されるということで報道があったところでございます。

それ以降でございますけども、残念ながら現在のところ、議員おっしゃった以上の詳細な情報については確認ができていないところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

先ほどの答弁でちょっと触れられましたけどね、以前ハウステンボスとバスツアーと一緒に組んでしよったですもんね。だからですよ、そういうふうな今までの、その何ですかね、そういうふうな関係もございますので、やっぱり今後は、質問になりますけども、佐世保でカジノができるわけですけれども、今後はハウステンボスと組んで、以前も組みんさったですね、こういうふうなバスツアーをですよ。やっぱり武雄の観光浮揚につなげていただきたいなど、いいチャンスじゃないかなというふうに思うんですけども、いかがでしょうか、この件について。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今回、日本にできるカジノは、外国人客と日本人客で入場料に差を付けるって聞いているんですよ。外国人客が来やすいようにということは、多分メインのターゲットは外国人の観光客だろうと。

思い出すと、私昔ラスベガスに行ったことがありまして、ラスベガスというとカジノだけじゃなくてショーがあったりですね、びっくりしたのは朝起きるとオプションツアーっていうんですかね、グランドキャニオンを見に行こうとか、物すごくいっぱいあるんですよ。それを思い出しました。おそらくハウステンボスにカジノが来たら、武雄はまさにそのグランドキャニオンみたいな感じかなというふうに思っています。いわば来られた方のオプションツアー、周辺観光、そこはしっかりとハウステンボスとですね、私も定期的に澤田社長とも会ってますので、しっかりとタグを組んで観光誘致を進めていきたい、そのように考

えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

いずれにしてもですよ、ハウステンボスさんと手をしっかり組んで観光浮揚につなげていただきたいと思います。以上で私の質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で21 番松尾初秋議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10 分程度休憩をいたします。

休 憩 10時49分

再 開 10時59分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次に、16 番宮本議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。これより 16 番宮本の一般質問を始めさせていただきます。

第1 項目です。観光課題についてです。

観光課題、以前から時々言ってますけども看板の計画、サイン計画の策定です。もともと、新市への来訪者の案内च्छゅうことで、樋渡前市長のときに公共看板をずっと倒してきたと思います。景観の観点ということですね。それにナビも発達してるので、その看板はあまりなくてもいいと。まあそんな感じで、最初ずっと倒してきたと思います。

それで、ナビもまあそのときはナビの出始めで、今ナビもある程度発達してるんですけども、近くに来たら目的地近くに来ておりますので案内を終了しますとか言ってですね。ナビもちょっとすべてじゃないच्छゅうことは、まあ大分わかってきたかなと。

それで、またその当時、樋渡前市長は、景観的に何て言うんですかね、山内町の陶芸村の木製看板とかはまあ環境にマッチしているという話ではあったわけですよ。

でも、実際ずっと看板の整備は進んでいかなかったということで、景観に配慮したサイン計画が必要ではないかということなんですけども。最近ちょっと評判のいい鹿島市で言えば、国の緊急対策ですね、経済対策を利用して道路にずーっと看板が立っていますし、その一部のえびすさんならえびすさんの話、それでその地区は地区の状況の看板、そしてまたWi-Fi がありますよという看板まであってですね、トータルで整備されているかなच्छゅうふうに思うんですけれども。

武雄市も今は、区画整理地区にもともと樋渡前市長の、前のまちづくり交付金でついつ

た分を、今地区内を整備したということで、地区内域の観光案内になってしまっていると。

そこで、全市を見据えたところですね、サイン計画をつくって整備をしていただけないだろうかということについて質問いたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

宮本議員さんからサインにつきましては、これまでも何回も御質問いただきまして、御説明をさせていただいたところでございますが、（資料提示）実は平成21年12月にですね、こちらのほうにありますけども、市街地観光案内板設置事業計画というのを策定しております。

この中には、佐賀県の屋外広告物条例とか武雄市の景観条例などを踏まえた上で、3つの整備方針を決めておりまして、1つ目は自然環境や都市景観を考慮するというところでございます。

2つ目に、観光のまち武雄のイメージアップに寄与するというところでございます。

3つ目に、ユニバーサルデザインに考慮をするという、この3つを掲げておるところでございますが、基本的には景観に配慮する観点から案内看板はできるだけ少なく済むのであれば、その方向でという形の立場をとっております。

しかしながら地域の実情もございまして、今回のように区画整理や、あるいは図書館等新しい施設ができたという形もありましたので、そういった場合につきましては案内が必要になったという形に応じて、その看板の老朽化もございまして、それにに応じて必要なものは補修や新規設置を行っていくという考え方でおります。

今後ですね、全体的にですから、議員さんおっしゃるように、どこの箇所に何をつくるという形の分の考え方、ふやしていくという具体的な予定はございません。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、方針はなかなかほら今いいっちゃうか、今までの方針なわけですよ。

しかし、この後ふやしていかないと、そりゃ区画整理のところだけの、市役所が変りましたとか、そこを修正するだけですかね。山内だって北方だってほら観光地はあって、車で来るときにこっちですよとか、そういう案内は必要ではないとですかね。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長（「山内だって北方だってって東川登も西川登もああやっか」と呼ぶ者あり）

〔16番「次言います」〕

○井上営業部長〔登壇〕

先ほど申し上げましたようにですね、必要な部分については、看板をつくっていかないと

いうことではなくて、必要な部分については当然山内であろうと周辺部分であろうと、それについてはつくっていくと。特に私のほうは観光の立場で申し上げていますので、観光客、あるいはよそからお見えになった方についての観光施設に対する案内については、これまでどおりやっていくという形でございます。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

必要なところにしていくって、具体的に必要なとこってどういうところを考えてあるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

例えば、新しい施設ができた場合について案内が必要になった場合ですね。

それから、道路改修等でその分の案内板がどこかに回収をされまして、新たにといいますか移転をしなくちゃいけなかった場合。

それから、老朽化をしてそのところが改修をしなくちゃいけなかった場合、そういったものを中心的に考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

このまま話してもちょっとあれですので、今の時点までは了解しました。

次に、町屋の保存活用の方針です。

最近 JR ウォークとか町歩きが各地でふえていて、健康も兼ねてかもしれませんけども。私もですね、まあそういうのに最近ちょっと参加をしてみてるんですけども、パターン的にその町を歩くと。まあ資料館があるところもあります。でも、資料館がないところは、その町屋を利用してひな人形をおくとか、その地域の見せたいその写真とかを貼ってあったり、一つの拠点となっているのかなど。まあそういうのが多いです、はっきり言って。

わざわざその資料館までつくるまでもないと、そういうのでこう代用できればということになっているのかもしれませんが、武雄にもいまだ個人が所有されてるところがあるので、画像は出せませんが、例えば北方にも宿場関係でありますし、宮野町にも、武雄町にもありますし、高橋地区にもありますよね。山内は宿場じゃないかもしれんけど、武家屋敷みたいなのもありますよね。だからそういうのについても、今個人でまあどうにか維持されてるけど、次の世代になったらもうそこへの執着とかそういうのもなくなるので、もうずつとなくなって一遍になくなっていくかなっちゅうふうに思うんです。

そこで武雄市としてですね、そういう保存活用というんですかね。そういうことについて、——これはですね木屋瀬っていうところなんですけれども。この民家を借りて、これはちょっとイベントのときで人多いんですけども、そういうところが拠点になっていると。

これは鹿島のほうの、もう酒蔵のほうは皆さん知っておると思いますけども、酒蔵の横のカヤぶき屋根の保存なんですけども、武雄市としてその町屋とかそういうものについてどうお考えかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

観光客を誘致するという形の立場からお話をさせていただきますと、確かにその町並み等がですね、古い町並みが続いてそこを歩くことにつきましては、喜んでいただけるという観光資源になり得るだろうと思います。

ただ、個別に町屋等が残っている場合につきましては、まあ通常ですね、その家屋が、例えば文化財としての価値があるかという形で、その保存をどうすべきかという考え方がまずあると思いますし、それから地元の皆さん方の御意向と、何よりもその所有をされております所有者の方々の御意向等も含めた上で整備をしていくべきかというふうに思っております。そういった形で地元の皆さん方とのお話を進めながら、そういった案件があれば、観光資源として活用ができるかどうかの分の検討に入らせていただくという形で考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

地元の人意識っていうか、まあ大切にしたいと思うか、そういうところが左右するかなということをお聞きしたので、また地元の人にそれをまず考えていただくと、そういうのが先になるかなっちゃんふうと思います。

はい、次に主要道路の整備についてです。

今回は国道 34 号線、北方バイパスです。今聞くとところによると、34 号線の北方、大町バイパスについては、大町町と現道拡幅ルートで調整してあると思います。それで、私が北方のほうにチラシを配ってるときに、武雄バイパスのこの一応工事も終了に近いと。今度、こっちの北方のほうはどうなってるねと言われたもので、一応そういう現道案になってるみたいですよと言ったら、もうあっさりそがんとできんろうもんと、こう言われたわけですね。それまで私は、そがんまでこう深く考えたことなく、そのルートかなと。そいぎ、そがん移転保証の何件あって、あいばひろぐつとに工事も長ごうかかるし、そがんとでくっわけなかりょうもんと、ばっさり言われたわけですね。

そいぎそこで私も、ちょっと反論できんやったと。ああそうだなと。そいぎ、要はやっば

りその、まずはいつまでに実現するぐらいから逆算して考えていかながいかんとかになっていうふうになっちゃうかと思うんですけども、もともと大町も南の農地案、北方町のときも南に行くというふうな格好で原案があったのかなっちゃうふうだと思うんですけども、そこでやっぱりその現実性というか、そういう聞かれたときに反論というかこっちの意見を言えるためには、ある程度その現道案で何十億かかるとか、こいなければ用地費はいらんけん大体このぐらいとか、そういうことをやっぱり詳細にはわからなくても、大まかな話としてしゃべれんといかんかなというふうだと思うんですけども。

まあ、今回言うのは、今あの現道案で調整してありますけども、いやもう一つの案も比較してから市民に説明できんかなというふうに思います。今はここから現道でこう来るということなんですけども、まあもともと大町とかにはこの線路の南側を行って、こっちの北方に来るっちゃうふうな感じになっていたと思うんですけども。

だから私がそれに答えるときに思ったのは、現実できんもんねとはっきりこう、なんか言われたところに対して、いややっぱりその農地案というのがどのぐらいかかって、こうなんだというふうに言わんといかんかなっちゃうと思うんですけども、その辺についてのお考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

議員がお尋ねの北方、江北間のルートでございますか。

〔16番「いや武雄、北方、大町、江北ですね。」〕

江北から北方間のルートのことですか。

現在、武雄市が進めてますのは延伸でございますして、現道にタッチするまでを中心的に今、国のほうへ要望しております。その全体的なルートについては、1市2町によります国道34号バイパス建設促進期成会のほうで進めております。

現在、市が進めているのは延伸ルートでございますして、北方町の国道34号バイパス整備促進検討委員会で検討され、まちづくり推進協議会にて承認を受けられたルート案を基本として、国道34号バイパス建設促進期成会にて国への要望活動を行っております。

ルート決定は国が行うこととなります。また、事業費についても、国が検討することとなります。

要望するルート案の見直しは考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、武雄市と大町と調整しているのは、北方、大町バイパスを現道拡幅ですということ

とじゃないんですか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

1市2町の期成会の中では、江北はもう現道にタッチしております。大町町内は、現道拡幅案でございます。以上でございます。

〔16番「北方は」〕

北方は現道、今の北方中央線を利用してすばやく国道にタッチさせて、あとは現道拡幅ということで進めております。

〔16番「ということでしょ、でしょ。」〕

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

っていうことですよ。だから北方バイパス、そちらのほうもそういうふうに進めているわけですよ。でも、それが実現性がないって言われることについて、それどう答えたらいいんですか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

いや、それを実現性がないと決めつけられるっていうこと自体が、私にはちょっとよくわからないのでございますが。(笑い声) これから1市2町で精力的に要望していった協力していくということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

現実性がないっていうことがわからんって言われたらですね、まあ今度またそういうのが逆に現実性があるという、そのお話をさせていただければと思います。

次いきます。

次は、都市計画道路の見直しです。ここ3年ぐらい都市計画道路の見直しをされてますけども、なかなか成果品が上がってきません。もう都市計画課の人でも、いつ始まったかなっちゅうくらいの感じで言われるときもあるもんで、あれですけども、まあ主な内容はもう長年実現しないところを整理して、その目標を見定めるというふうなことだと思います。

そして、県との調整難航3年間ということ、こっちが見やすいので出してますけども、こういうふうな都市計画道路があるちゅうことでしたよね。実際、できているのはこの温

泉の前のとこですね。まあこの新町とかはもうなくなってますけども、もうここだけで、こっちもこの間は小学校の前もしない、上もしないっっちゃうことで、まあここを全部ほとんど8割方できていないということになるんですけども。

そこで見直しをすると、多分縮小を——ずっと縮小すると思うんですけども、もう3年もかかる。次の見直しというにはまた時間がかかるもので。今回言いたいのは縮小もせんといかんと思うです。大きく縮小せんといかん。

しかし、今度出たのが縮小だけじゃ寂しいからですよ。（「寂しい」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）新しい必要な道、これ多分昭和の——どがんですかね3、40年とかそこらにしてあるとですかね。そのときに必要な道路の縮小なわけですよ。だから、もう何十年もなってるけん、今考える将来にわたって必要な道路というのを、今回その全部縮小だけじゃなくて、新しい、将来に向けてのルートも1、2本ぐらいは描いてほしいなというふうに思うんですけども、その辺についてのお考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

現在進めております都市計画道路の見直しは、計画決定後、長期間着手していない路線を対象として現在関係機関と協議を行っているところですが、この協議ちょっと長い時間がかかっております。

現在の新規認定路線については、すぐにでも着手することが要件でございまして、着手する見込みのない路線を決定することは考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

今でも着工できんから新しい案なんかはできんという話ですけども、でも新しい案のほうに先にせんといかんということも今出てきているかなと思うとですよ。もう以前の案は家が張りついていて、補償費が物すごくかかるからですよ。

例えば、今度その国道498号線が北方のほうに行くとなれば、今度その朝日っていうんですかね、そのずっと東に来てますよね、東部開発で。だから、そちらのほうに農地をつくるほうが先に着手できるかなというふうに思ったりもしますけども、それについては、今度具体的にまた別の機会に提案したいと思います。

次に工業団地と用水です。

1問目の工業団地のスケジュールについては、開会の日の説明がありましたので、ちょっと割愛させていただくということで、東川登に今度つくられるということだと思います。

それで今度、その主題は工業用水のあり方っていうことで、私、最初議員になったとき、

若木工業団地にはこの第2浄水場の、若木浄水場から水が来ていると思ってたんですね、最初。ほいでずっとしていたら、いやいやそれは西川登の矢筈のほうから東川登に送水して、そこで浄水して川良のほう越えて朝日を越えて若木にいつているっちゅうことがわかったわけですね。あらーって。ちょっとえらい——まあ昔、水利権が厳しかったからそういうことになっているのかもしれないですけども、こっち側に水源持つって、それ使わんでっていうふうなこともあったわけなんですよ。でももうつくってしまって、一般会計からずっと入れながら借金払ってきてるんですけども。

これ古くなったら、またこれをずっと配水管から浄水場から全部かえていかんばいかん。いやこれはまた、また持ち出しばずっと何十年かせんといかんなどということ、まあ今の形はとりあえず、もう後何年かで支払いが終わるっちゅうことですけども、今若木工業団地まで来ていると。

今度、北方インターの工業団地も、この途中から分岐していこうかなというふうな考えもされているって思うんですけども、そういう途中で何ですかね、まあ上水道については西部広域水道と統合すると。そいぎ水道課が、直接なくなると。そいぎ今、工業用水は水道課のちょっと言えばちょっと余力というといかんですけど、持っている部分の一部を使って維持しているということなわけで、この本体がなくなってくると、ここだけをまた用意せんといかんと。ますますこういうのを全部こうつくりかえた上に、またここに舞台をつくらんといかんと。ちょっとそれはいかんなどということ、そのもう杵島工水が北方まで来てるけんが、まあここに少しお金を継ぎ足しても、こっちからはいただくと。そして若木工業団地については、矢筈と本部ダムの水利権の交換みたいなことをして、若木からつくるというふうな格好に持っていけんかなっちゅうふうにも思うんですけども。

まあ工業用水供給について少し考える時期に来ているんじゃないかなっちゅうふうに思うんですけども、市の考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

笠原上下水道部長

○笠原上下水道部長〔登壇〕

工業用水道事業の運営につきましては、検討を重ねているところでございます。

現在の工業団地におきましては、空き地を多く残しておりまして、工場の追加、工場の内容につきましては使用水量が大きく変わる可能性があります。引き続き企業の動向を見ていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

空き地を残している。空き地を残しているけんがもっと水量がいいかもと、ちょっとよく

わかりませんが、まあとりあえずは今回の提案としては、そういう見直し時期に来ているので、みんなが納得して本会計からまた再び繰り出しをせんでいいような計画をお願いしたいと思います。

次に、競輪事業の経営方針についてです。

場外部門の民間委託ということ言ってるんですけども、佐世保市さんがトーターさんですかね、こう民間に全体を任せると。

ただ、私が思うにはその何ですかね、施行の部分はやっぱりまだ持っとしていたほうがいいのかなと。

ただ、場外部分については、もうほとんどサテライトと同じことを本場でやっているだけだからですよ、チケット販売のほうは民間委託でもできるんじゃないかなと。

そして、まあこのサテライト長崎っちゅうとこちょっと行きましたけども、大体売り場の広さは今の武雄のコンパクト化したのと同じぐらいですもんね。そいで何人いるかって、武雄は警備員さんがもうたくさんあって、またおられるんですけども、向こうは女性2人と警備員さん2人ぐらいで運営しているわけなんですよ。少ないがいいかどうかはわかりませんが、そんな格好になっていると。

そういうことですね、これ佐世保のやつの場外ですけども、もうナイターもずらっと月ほとんど全部してあるとですよ。武雄のモーニングとか四日市とか松山とかもう1日3つしてあるわけなんですよ。だからこれは結局、まあ民間でその何ていうかね、こう動きが速いっていうか、そういうことにも起因してるんじゃないかなっちゅうふうに思うわけですよ。

それでまあ以前もちょっとしましたけども、武雄競輪のところの夜間、ナイターはあまり計画がないということになつとるわけなんですよ。だからこの辺を比べても、ちょっと場外部分の対決にちょっと負けているんじゃないかなっちゅうふうにちょっと思うわけなんですよ。

そこで、そこを委託してするような考えで進めてもいいんじゃないかなっちゅうふうに思うんですけども、市の考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

宮本議員さんにお答えします。

今、本場業務それと場外業務、場外業務を民間委託という部分でおっしゃられてますけど、現在うちの本場業務と場外、同時にほとんど行っている状況です。

インフォメーションについても今、トーターさんをお願いして民間委託をしています。

集計センターについても本場、場外含めて民間の方をお願いし、サテライト武雄について

も同様。今、部分的にはやっている部分あるわけですよ。場外だけで、その佐世保市さんとうちがなぜちょっとできないかという、やっぱり地元の人口等々、佐世保市さんとうちでは5、6倍違う。向こうのほうが本場については、売上が上がっていると。うちについてはやっぱりサテライト南九州とか、そういう部分で何とか収益をもっているという部分でその違いがありますけど、場外業務、事務っていうか、そういう部分の簡素化等々でまあ軽費等も削減したいと考えております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

私が比較しているのはですよ、佐世保の本場じゃないわけですよ。サテライト長崎、これ森山町ですかね。（「飯盛」と呼ぶ者あり）飯盛町か、すみません。飯盛町ですかね。だから、そんな町にあるわけじゃないとですよ。

だから、ここでナイターの売れるのは武雄では売れんって、そういうことはちょっとないかなと思いますけども、まあ所長の方針としては、今一部民間委託してるとこのもう一個簡素化を図って、効率化を図るっっちゃうことですけども、私が言っているのは効率化じゃないとですよ。売上増のほうをいっているんですよ。だから、まあ経費が減れば結局収益増にはなるかもしれんですけども、まあよそがやってる場外対決に負けんようにしてもらいたいっっちゃうのがまあ趣旨ですので、今回とりあえず削減のほうはするということですので一歩前進かなというふうに思いますので、その先のこの販売のほうをほんとにできんのか、できるのかを研究していただきたいと思います。

次はですね、競輪の経営のところで第一駐車場の確保105台ということですよ。

今、武雄の競輪場は、何て言うんですかね、本場横ってそのイベントに使うと言われていた新駐車場85台ですね。今、記念とか何とかも言われますけども、普通の場外のときでも下の第一駐車場はいっぱいですよ。そしてその下の、ちょっとあの信号機手前ぐらいまでがもういつも埋まるパターンと思うわけですよ。

それでまあ近くの場外、サテライト長崎とかチケット鹿島ですかね、ぱっと計算すると300台ぐらいあるわけなんですよ。あの本場じゃなくてもですね、場外でも300台ぐらいあるんですよ。

そいで、何で言うかという、まあその第一駐車場で180、190台と。そいぎ、その武雄が関連してるサテライト宮崎でも1,000台あるっっちゃう話ですよ。そして、サテライトみぞべでも870台あるっっちゃう話なんですよ。

これで何を言いたいっっちゃうと、今度計画されている公園の場所が第一駐車場を潰してっっちゃうことになるとるわけですよ。今、共同通信杯があるまではちょっと多いかもわからんから、まだちょっとこれ待ってますよと。

で、その後にしますよということですが、いや、その公園をつくることは反対じゃないとですけども、その第一駐車場はほとんど場外のときもこことまっていますし、ここバスの発着場になつとるですよ。それで、お客さんからしたらバスすら下まで歩かすんなど。バスば上にあげて来らせんやとかいう話なわけですよ。でも、上はちょっといっぱいやけんバスは行かれんと。ここで、ギリギリのところでおろしてくんさあというふうな格好になるとですけども。

そいで、まあ言いたいことは、この第一駐車場をちょっとずらした格好で公園を計画してもらえんかなつちゅうことについての、まあ市のお考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

現在、第一駐車場 105 台とめられます。で、メインスタンドが 86 台という部分なっています。以前、まだ旧スタンドのときは、第一駐車場と下の第二、第三、第四、第五と裏駐車場ということで約 2,000 台近くはとめられるという部分がありました。

それで今議員が、メインスタンドの裏の駐車場をつくった関係上で下まで残せば、スタンドからは近いという部分もありますけど、今のその子ども広場のほうにまた駐車場を確保という分を、砂利等をおいて確保して、そこで約 20 台ぐらいだと思います。20 台ぐらいとめられると。それと、メインスタンドの裏の駐車場 105 台合わせれば、前の第一駐車場とほとんどかわらないわけですよ。

今その公園を第一駐車場のところに計画をしております。これについては、競輪場と一体、これちょっとずらせばまたやっぱり競輪場と一体とならないのかなという部分もありますので、現在の公園の位置を変えることは考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、そのバスの発着場はどこになるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

現在、その上の駐車場が結構満車になるのが早くなりましたので、一番下の手前のほうでおりてもらっています。今度の公園についても、一部駐車場をつくる予定もありますので、そこまでは行ける状況にはしております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

ああ、そうですか。でも、よく考えたがいいと思いますよ。売り上げ上げて、競輪の経営をどうのこうのってこう言って、実際、例えば委託したもんは、いや駐車場なかけんが売上げ上がらんですもんねと言われたとき、どがんなあかということですよ。

ちょっとずらしたっても、まだ敷地はたくさんあるからですね、いいとやないかなど。ここをしても20台ちゅうわけでしょ。なんかもう知れてるですよ。今、普通の場外でもこれ第一駐車場はいっぱいですよ。もういっちょその何かな、経営ということでよく考えていただきたいなというふうに思います。

次は、相続登記の問題点ってこう書いてますけども、何を言いたいかという、結局相続ができないで土地の売買ができないと。農地集約も所在不明の相続人の増加ということで、民間取引もできないし、農地集約もできないし、空家処分もできないし、公共工事もできないと。

たまたま、今回武雄市のほうも所在不明でされるような格好になってますけども、まあそれとおんなじようなやつが結構今、各地にあるんだなと。まあ私は、市が出る前にそういうのを体験しとって、あら、そがんことあるとかなって、いや市にも、あら、これあっちもこっちもあるんだなって言って、その不動産屋さんとかに聞けば、いやよくあるよと。特に、昔海外移住みたいなやつが多かって、その人たちがもう高齢になってわからんっていうのがいっぱいあるですもんねって言う。ああそうや、そいぎ、これはやっぱりこがんことを早く手付ていかんとまた空き家みたいになって、最後ほとんどもう10分の1も整理できんというふうな格好になるのかなと、いうふうにちょっとまあ思ったわけなんですよ。

しかし、相続というのが何年以内にせんといかんちゅうことがなくて、ただ納税義務者だけをちょっと市に伝えると、まあ一応そういうことになっております。それで、まあ直接のその法律はないということで、そいでどうしたらいいかなと。で、自分も言うからには何なりとの提案ぐらい持って言わんといかんかなちゅうことで、まあ納税義務者代表届の更新っていうのをしたらどうなのかというふうに思うわけなんです。それでまあ、早くその真の所有者に登記をかえて、そして真の所有者が納税していただくというふうに、まあ一つ勧誘というんですかね、言わないといかんと思うんですけども。

それと少し防ぐ方法があるのかなっていうのは、その相続がしてないときに市が納税義務者代表者届というのを最初に出してもらいたいとですよ。そして、何か変わったことがあったら御連絡くださいってまあ多分口頭って思うんですけど、口頭で言うと。

ただ、この人がずっと口頭でしたことでずっと動くかなちゅうと、あんまり動かないかなと思うわけなんですよね。（発言する者あり）そいで、結局私が思うのは、このずっと、その延ばすというのはほんとはいかんんですけども、まあ延ばしてもやむなしってしてあるならば、その納税者代表届じゃなくて、大切なのはこの相続人ですもんね。ここ

が結局おらんようになって、場所がわからんようになったら、結局売買ができんちゅうことで。そしてここには、相続登記が完了するまで地方税法第 343 号 2 条第 2 項の規定により、相続人全員が納税義務者ですって、そいぎ全員が納税義務者だから、ある意味税務課もこの全員というのを把握しとかんばいかんとやなかかなというふうに思うわけですよ。まあ金がまずこっちから入ったら安心というのものもあるですけども、いよいよ入らんときにはこれ全体に把握しとかんといかんと。そして、住所どおりに住んであるならいいですけども、まあ現住所が違ったりとかそういうものもあるのかなと。

そいで、私の思う防ぐ方法としては、この納税義務者代表届じゃなくて、納税義務者及び相続人の現況変更届というのを毎年送って、最新情報を書いて送ってもらうようにしたらどうだろうかというふうに思うんですけども、まあ市のお考えをお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

未登記物権についての御指摘と思います。

御指摘のとおり、未登記物権が多いということでいろんな経済活動に支障が出ていることも事実であります。あいにく、この相続登記につきましては法律上義務化をされておりませんし、罰金もありません。そういったことで、なかなか亡くなられても相続登記まで至るといのは、これまでの実績から言えば3分の1ぐらいになっているのが現状であります。

先ほどありましたように、固定資産をお持ちの方が亡くなられたという場合には、その翌月に納税義務者代表者届というのを税務課のほうから提出依頼を送ります。その際には、相続登記をする必要性等について法務局が（資料提示）こういった相続登記の御案内をつくっておりますので、これを同封しながら相続登記のお願いをしているという状況であります。

今後につきましては、相続登記の名義人が死亡をして1年たっても相続届がなされないという状況のときには、毎年固定資産税の課税明細書はそれぞれ代表者さんに、登記名義人が届きますので、その折の同封にまたこういったチラシを同封して促していきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

国のほうのパンフレットを送って、認識していただくということですね。

認識も大切けども、やっぱり把握ということも大切かなちゅうふうに思いますので、これも空き家と一緒に、はよはよ言っても、なかなかそういうのが、事例がどんどん出てこんと、社会問題ならんかなと思いますけども、そういうのにいち早く武雄市は取り組んで防いでいただきたいと思います。

次は、ピロリ菌の検査拡大です。

今、武雄市では20歳から40歳までですかね、40歳以下ですかね。わかもん検診でピロリ菌の検査をしております。県のほうは、中学3年生全員に検査をされておまして、まあ胃がんの90%の原因はピロリ菌と言われるわけですよ。ということは、ピロリ菌をやっつけていけば、一番その防止の方法と。そのわかものを検診しても、世帯内感染もあるってことです。やっぱり家の人もピロリ菌をなくしていかんといかんわけなんですよ。それで、まあ今回思うのは、かかっている人のほとんどは、多くは40歳以上っちゃうわけなんですよ。そしたらやっぱり、そっちのほうにも手をつけていかんといかんじゃないかなと。

それで、集団検診に来られたときに尿の一部をとってですよ、何か検査は県の中学生のところじゃ790円っていうんですね。補助なしでも790円っていうわけなんですよ。だから、そういうのがあれば一回受ければいいからですね。790円払って受けてもいいんですけども、そういうちょっと機会がないと。それで、お金を補助するっていうことよりも機会を創出してもらえんかなっていうふうに思うわけなんですよ。そして意外と簡単なんですよ。まあ中学生にしてもらうぐらいだから。そう難しいんじゃできないので尿検査をして。これは県のほうです。佐賀県のほうで一次、そして便検査して抗生薬飲んで呼気検査をすると。

これは兵庫県の篠山市が、まず尿検査、呼気検査、それから薬を飲むというような格好なんですよ。武雄市としてもがん撲滅日本一ですかね。そういうことで取り組んではと思いますけども、それについてのお考えをお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

大宅くらし部長

○大宅くらし部長〔登壇〕

胃がんの発生につきましては、喫煙とか食生活等の生活習慣がピロリ菌の感染が発生リスクを高めるというふうにされておりますけれども、武雄市ではがん検診の対象前の若者、若年者を対象に予防という観点から検査を実施しているところでございます。

ピロリ菌の感染源は、胃がんの発生リスクを高めるというふうにされておりますけれども、感染した人がすべて胃がんになるというわけではありませんので、このピロリ菌の検査ではがんの判断ということではできません。

国の指導に沿って40歳以上の人につきましては、がんの予防のピロリ菌の抗体検査よりもがんを発見するというのを重視し、胃の透視や内視鏡の検査を進めていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

今までどおりっちゅうことですたいね。でも、自分でお金出すっていう人にはさせてもいいんじゃないかなと。そんなかたくなにするような話じゃないんじゃないかなというふうに思います。

次に、市民サービスの改革についてです。

証明書のコンビニ発行ですけども、以前言ってたときにはマイナンバーカードができたときに考えるっちゅうことだったんですけども、マイナンバーの発行はできたんですけども国のほうがトラブルとかなんとかあって、なかなか発行がスムーズにいったなかったというところで、私もちょっともうそれまで待っておりました。最近、カードもスムーズに発行されているっちゅうことで、今度 29 年からは国の費用の補助ですね。システム代ではなくて加入金とか、1 通の発行賃の 123 円の割引とかそういうのがあります。そしてまた新庁舎に移転すれば、システムも変えるということもあると思いますし、また佐賀、小城、東部のほうではもう実施されております。

そこでもう決断の時期じゃないかっちゅうふうに思うんですけども、市の考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

井上くらし部理事

○井上くらし部長〔登壇〕

コンビニ交付導入の市の考えをということであります。

先ほど県内の状況について言われたんですけども、県内では 4 市 4 町、佐賀市、小城市、鳥栖市等で導入をされております。

運営負担金委託手数料の改定も来年度からはなされます。地方公共団体情報システム機構の運営負担金が年間 300 万から 220 万円へ。それから、コンビニ事業者等への委託手数料が 1 通当たり 123 円を 115 円に改定をされる予定であります。

武雄市ですけども、現在杵藤広域圏で共同電算処理を行っておりますので、構成市町との調整が必要でありますし、県内の導入、市町の利用状況等を見ながら、導入に向けて検討をしていきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

まあ検討は以前からずっとされてたかなと思いますけども、杵藤広域圏の中ではやっぱり武雄市がリーダーだからですね、そのような判断を武雄市のほうがまずしたほうがいいんじゃないかなっちゅうふうに思います。

次は、大字の廃止です。

大字というのは、いらんとじゃなかかなと。特にネットですれば、大字を書くところなん

かないですよね。ネットで注文するときなんかですね。それでなんかそれ調べると、大体、国のほうは平成の大合併のときに、まあ大字は、もう小字もなくなってるけん大字の意味がないと。で、大字もなくしますような方針も一つの計画の中に入っとったというふうなこともちょっと勉強しました。

それで武雄市はですね、樋渡前市長がいやいやもうそがんとやなく、それより以上の住居表示を目指すということだったので、まあ有田とか何とかですね、地番じゃなくて住居で1の5の3とか、そういうふうな格好に持っていくというような格好で言われてたもんで、それも期待したんですけども、まあなかなか難しくて具体化していないと。

それで、新市庁舎を移転する、前は50年、今度はもう70年ぐらいなるでしょう。こういう機会を利用してですね、大字を廃止してもらえんかなと。そして今、廃止しているのは上の部分ですね。そして2つ、同じ市内で2つに分かれるのが佐賀市、多久市。存続しているのが武雄、鹿島、嬉野ってこういうふうになっているんですけども、観光地なんかはやっぱり覚えてもらいたいからか知れないですけども、ほとんど大字外してあるですもんね。

それで武雄市も、大字をこの際外したらどうでしょうかという質問です。

○議長（杉原豊喜君）

井上くらし部理事

○井上くらし部長〔登壇〕

大字の廃止ということではありますが、大字の廃止には法令で地方自治法の第260条でありますけども、規定された手続を経て変更する必要があります。

正式に大字を廃止する場合には、住所だけでなく本籍、土地表示まで影響が及びます。多大な行政事務や経費を要しますし、議会の議決、市民への説明と理解が必要となります。

以上のことから、現段階では大字表記の廃止は考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

でもほら、唐津市とかこうしてあるわけですよね。合併のときしてあるわけなんですよね。あれだけいろんな町があるけども、してあるわけなんですよね。

だからその何て言うんですかね、これはほら住民が変えたいって言っても、どんな努力しても変えられんわけですよね、市がしてくれんと。

それで、その費用ってどのくらいかかるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

井上くらし部理事

○井上くらし部長〔登壇〕

費用の部分につきましては、前回といいますか平成21年に前市長のときに、郵便地名復

活調査研究委員会が設置をされまして議論をされましたけども、先送りとなりました。

その際に、事業費として概算ですけども、武雄町のみの住居表示を……

〔16番「住居表示じゃなか」〕

導入した場合には、約6,000万円かかるということでもあります。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、住居表示は金かかるんですよね。もう何の何の何というのを、全部振りかえんといかんわけだからですよ。今まで千何百何十何番を、1丁目1番地の何とかとせんばいかんけんが、そろそろ住民だってもう大変なことになあですよ。自分のとこ変えてせんといかん。ただ今度、大字を書かんだけですよ。そいけん、もっと振り仮名も、武雄市武雄町大字でしよったとば、大字って書かんでよかだけだから、その辺はちょっともう一回計算していただきたいなと思います。

そして、機会としてはこの何かを機会に言うけん、まあ庁舎が移るのを機会にしていっちゃんないかなというふうに思うとですよ。それで、観光的にも大字何とかやもんねって言わんで、ちゃんと大字なくて言ったほうが観光地としての、まあ武雄温泉駅だっただけで結局、温泉駅って変えて、当初はどうなのかなと思ったけど、やっぱり変えとってよかったかなというふうに思うとですよ。だからそこは、もう一つ研究していただきたいと思います。

次は、教育・子育ての件です。

今度いろんなも武雄市も忙しいとか何とか、そういう先生が忙しいとか何とか言われる、そういうのもありますけども、またプログラミングと英語教育というのが入ってきますと。

それで今、山内西小だけで行われているプログラミングについて、まあほかのところでも教えんといかんかなっていうふうに思って、公平化っちゅうことを書いてありましたけども、そしたらきょうの山口さんの出されたパネルの中に全小中学校でするってこう書いてあったですよ、ひょろっと書いてあったですね。それで、全小中学校でするのかなと思うんですけども、山内小も多分、1年、2年、3年でこうしてたんじゃないかなと思うんですよ。

そしたら、その全学校の全学年なのかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

今回、ソフトバンク社様から提供されますペッパーですね。この導入によりまして、これからのプログラミング教育の可能性が大きく広がると、こういうふうに考えているところでございます。

小学校につきましては、4年生から6年生までの2学年以上、総合的な学習の時間に位置

づけまして、年間5、6時間程度の授業を実践していきたいと考えております。

また、中学校におきましては1年生から3年生までの2学年以上において、これも年間5、6時間程度で、技術の時間に授業実践を進めていきたいという、そういう計画でいるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

小学校については総合学習ですかね、その中ですね。でも今、何でん何か総合学習にぶち込んできようっていうんですか。そいけん総合学習って大体何なのかっていうふうな感じになりようかなというふうに思うし、また、技術家庭にぶち込んでくれば、本来の技術家庭はどうなるのかなと、そんなことも思うですよ。

そして今、山内についてはD e N Aの人が来てされるわけでしょ。そしたら、今度もソフトバンクの人が来て授業されるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

ペッパーの活用ですね、これについては当然ソフトバンク社のほうからの御支援をいただくことということになります。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

ペッパーの活用のことについてはではないとですけど、プログラミング教育のことですけども、まあ、はい。

次は、英語のほうがまた導入されると。

それで今5、6年生の、今正規の授業じゃないので正規の授業になるっちゃうことで、5、6年生は今の時間を使えばいいだろうと。そして、それ以外の1年から4年まではどういう時間になるんですかと。よそなんかは、朝の時間を利用しますと。武雄の場合には、そこに花まるをしていますよと。そいぎ、そこにぶつけられないですねと。ぶつけられるのかもしれませんが、その時間についてはどう考えているのかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

英語学習でございますけども、現在小学校においては、現行の学習指導要領に基づきまして5、6年生は週1時間の外国語活動の時間、こういう中で学習を行っているところござ

います。

次期学習指導要領の施行にあわせて、小学校では平成 32 年度から実施をするということでございます。3、4年生につきましては、外国語活動の時間として週 1 時間の実施。5、6年生につきましては、週 2 時間の教科として外国語としてどちらも時間割に組み込んで実施をしていくということになります。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

1、2年は言われたですかね。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

1、2年生についてはございません。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

以上で質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で 16 番宮本議員の質問を終了させていただきます。

議事の都合上、1 時 20 分まで休憩をいたします。

休 憩 11時59分

再 開 13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次に、10 番上田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さん、こんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより 10 番上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

質問に入る前に、本日 3 月 7 日、そしてあした 8 日、県内では公立高校の入試が行われております。武雄市の今後の方向性についてということで質問をあげておりますが、今後の町を担う子どもたちに最大限受験で力を発揮していただければなと思っております。きょうまで保護者の皆さんについては、ベストな体調で受験に送り出してやりたいという、いろんな思いやりがあったんじゃないかなと思っております。高校入試、しっかり頑張ってくださいと思います。

それでは早速、質問に入ります。

今回、まちづくりについてということで、大きく1項目の通告をさせていただいています。主な中身としては、このような感じで進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それではさっそく、新幹線についてであります。

まず新幹線について、これ見ていただければわかると思うんですが、フリーゲージトレイン。どういうことかと、今まで当初計画によれば、フリーゲージによる34年全線開業が計画で行われておりましたが、フリーゲージの説明をここ数回、簡単にはぶいておりましたらフリーゲージが一体何なのかというのが全然わからんということで、皆さんから声をいただいたりしながらいったところでもありますので、ちょこっとだけ話をさせていただきますと、この走行レール1,067ミリ、これが今の武雄温泉駅を中心に進んでいる線路の幅です。1,067ミリが現行の、今武雄温泉駅前後にしかれているレールの幅、在来線の幅ということになります。それが1,435ミリ、これが新幹線の車輪幅になります。要はこの車輪幅を軌間変換装置を使って、この線路にあわせた車輪幅で進む、その技術がフリーゲージトレインということで進んでおるわけであります。

これが路線図になりますけれども、山陽新幹線は今、博多よりも東のほうで時速300キロで進んでおります。これで、今現行計画はその新鳥栖から武雄温泉間、これが在来線を利用すると。先ほど申しあげました、1,067ミリをここの在来線区間を走って、武雄温泉からまた長崎へ向かうときにはまた新幹線の幅に戻して、また走っていくと。

これをフリーゲージということで1,067ミリが1,435ミリを、要は拡大したり、縮小したりする装置を使ってこれをやっていくというのがフリーゲージでありますけれども、今問題になっているのは、いまだにこのフリーゲージトレインのめどがたっていないということであります。

技術評価委員の結果を待つ今の時期ではあるわけですがけれども、現行、いまだにフリーゲージトレインのめどがたっていないという状況で今、市の認識を改めて確認をしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部理事

○千賀営業部理事〔登壇〕

先ほど議員さんからもありましたように、当初の予定では平成34年にフリーゲージトレインによる開業ということで進めてまいりました。2年半前ぐらいの平成26年10月から耐久走行試験を始めましたが、2カ月足らずで休止と。それと、一昨年12月の軌間可変技術評価委員会にて、まだめどがたたないというようなこともございまして、昨年3月に6者合意によってリレー方式による暫定開業という運びになっております。

フリーゲージトレインの開発についてございますが、昨年 11 月に行われました軌間可変技術評価委員会の報告を踏まえて検討された結果、部品の摩耗対策効果等を再検証するとともに、コスト削減策を改めて整理するということになっております。

現在、検証走行試験が実施されておりまして、ことしの初夏に予定されている評価委員会において、耐久走行試験の再開について判断されるということになっております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

今年の初夏ですね、今年の初夏に技術評価委員からの報告を受けて、耐久走行試験を再開できるかどうかというところでありますね。

とりあえず今、現段階での状況を確認しますと、平成 28 年 3 月、佐賀県、長崎県の両県と国交省、それから政府与党整備新幹線建設推進 P T——新幹線与党 P Tといわれているものです。それと J R 九州、鉄道・運輸機構の 6 者による合意が締結をなされておりますね。

中身的には当初の計画だったら、先ほどの答弁もありましたように平成 34 年にフリーゲージによる全線開業があったと。その当時、これは以前私が使ったページでちょっとそのまま流用しているんですけど、平成 32 年に東京オリンピックがあるわけですから、可能であればもうここに前倒しできないかというぐらいの質問をしておりました。

ただし、今先ほど答弁にもありましたように、今フリーゲージの技術が頓挫をしているというところで、もちろん 32 年の東京オリンピックはもう、もちろん間に合わない。32 年の東京オリンピックに間に合えばいいねって言ってたところが、もちろん間に合わない状況ですけど、今ここに至っては、34 年のフリーゲージも、もう要は間に合いませんというのが確定しました。今現状はこれですね、平成 34 年武雄温泉駅でのリレー方式による暫定開業ですね、こういうことに今なっています。

ここでちょっとミソがあるんですけど、武雄温泉駅でのリレー方式なんですよね、あくまでも。どういうことかと整理すると、要は従来の在来線利用区間の線路がありまして、武雄温泉駅、ここだけのリレー方式による対面乗りかえなんですよね。あとのところは何も関係なかわけですよ、ですよ。武雄温泉駅で言えば、今現状は 1 番線、2 番線、3 番線ですね。ここが在来線の上下、違う、在来線だけか、ここは在来線だけですね。2 番線は特急の上り線ですね。3 番線は特急の下り線で利用されてると思います。それがこういうことですね。

ここで 3 番線から対面乗りかえで新幹線の、要はリレー特急で武雄温泉駅に着きました。そのついたときに新幹線が、武雄温泉駅の反対側のホームで待ってますよと。長崎行きの新幹線が待ってますよって、そういうふうなことになるわけですよ。

何が言いたいかと言うと、質問の——私もちよっとあっち行きこっち行きするけん、わか

今、問い合わせの件につきましては、佐賀県にもつうじて確認をしております。

やはり、フリーゲージトレインを通じて関西方面まで直接乗り入れできるという条件で、この計画はなされているということでございました。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

だと思っんですね。てことはですね、新幹線の特性というのは安全性、高速性、定時制というのがおおむね特性として言われています。

ただし、この安全性のところでは、今の現状でいけば、軌間変換装置に不具合が生まれてるって。今、計画どおりに耐久走行試験が行われていないっていうのは、安全性に疑義があるからこそ、今そういう状況に陥っているわけであって、高速性といえば、午前中の質問にもありましたけど、山陽新幹線の乗り入れが前提と言いながら、山陽新幹線の速度が 300 キロで走りようですよ、おおむね。（発言する者あり）今話にあがってます、フリーゲージトレインというのは 270 キロですよ、最高速度が。だからそういうところもあって、JR 西日本は受け入れをしがたいみたいな感じの報道がいろいろ、私も聞き及んだるわけですよ。

まあ定時制というのは多分、ダイヤのかれこれだと思います。ダイヤのかれこれも午前中、質問ありました。武雄市には常襲水害地区が走ってますよ。だから水害によって電車とまっています。そがんふうなどのダイヤの乱れ、絶対またそこだけの話じゃ終わらんわけですよ。結局その先の部分もある。だから定時性についても疑義がある。まあちょっと新幹線の特性 3 つが、全部疑義があるような状況ですよ、今。

なおかつ先ほど話がありました、西九州ルートフリーゲージの前提条件は、あくまでも山陽新幹線の乗り入れが前提よという話なわけですよ。

これもさっき言いました JR 西日本から見て、受け入れしがたいとかっていう報道をいろいろ目にしております。

だからもうフリーゲージトレインの開発も全部ですね、前提条件が全部くずれてしまつるとやなかかなというふうに、私は感覚として持つとうわけですよ。ただ、これについて今、まあ武雄市としての見解というふうに求めても、なかなか難しい——佐賀県はどういうふうな今認識でいるのか、そこをちょっと答弁できますか。確認してもらえらわと言つてましたけど。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部理事

○千賀営業部理事〔登壇〕

今御質問の件につきまして、佐賀県の担当部署のほうに確認をしております。

まずは、西九州ルートについてですね、現在6者合意によって対面乗りかえになっておりますが、その暫定開業について、あくまでも暫定とはいふものの、新幹線と在来線のすべての列車が武雄温泉駅に停車することになるということ。

県としては、武雄温泉、長崎間の開業にあたって、その効果ができるだけ高まるように地域の皆さんとしっかり盛り上げていきたいというのが、まず一点でございます。

2点目については、国には引き続きその責任において、安全・安心なフリーゲージトレインの開発を進めてもらいたいと考えているが、耐久性などの技術開発の問題であるということで、県としてはその推移を注視していくというのが2点目でございます。

3点目についてでございますが、フル規格についてですね、全国新幹線鉄道整備法で定められた財源スキームでは、多額の県の負担になりますので、フル規格の整備について議論できる環境ではないと、以上3点を確認できたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

今、千賀理事のほうから答弁いただきました、まあ3点の回答をもらったということです。

1点目に関しては、もう当たり前ですよ。もちろん、もうみんなでやっついこうということできよるわけやっけんが、まあわかりますけど。

大きくいったら、さっきの3点目ですよ。もう今、私その3点目——ちょっと私語で聞こえてきましたけど、確かに新幹線のスキーム自体を変えていくしかないわけですよ。だからこそ、この武雄市議会としても平成25年9月に、それから28年3月、フリーゲージじゃないフル規格化への協議を求める意見書とか整備についての意見書を武雄市議会出しています。その内容としては、新幹線スキームを見直せという話もしておりますし。

ただ、今現状として可能性があるとするれば、その交付税算入の割合を拡大させるか、もしくは財政投融资でやらせるか、どっちか。このもう2つをとにかく要望、陳情していくべきではないかなと私は思っているわけですよ。今の3点目の分の回答としてはですよ。

ちょっと質問、先に進みますけど、この軌間可変技術評価委員会の報告は先ほどの答弁でいけば、ことしの初夏ということになっております。今の話を聞けば、佐賀県のスタンスとしては、初夏の報告を待つのみかなってということは感じに聞き取れたとですよ。私もちょっといろいろ調べた結果、県のスタンスはこうじゃないかなと。

じゃあ、県はこうですよ。県はこうですけど、でも武雄市としてはじゃあどうなんだと。

先ほど話をしましたように、スキームの見直し、交付税算入の拡大とか、財政投融资の運用っていうようなところをいろいろ、選択肢としては今この時期でも、動くべきことが私はあるんじゃないかなと思うわけですよ。

フリーゲージがはっきり言って、今の状況で山陽新幹線に乗り入れが——県は乗り入れが

条件、前提ですと言いますよ、でも今ここに至ってもうフリーゲージでの山陽新幹線乗り入れ無理やろうもんで言うとは多分、10人おーぎ10人そがん言いよんさーとしか、私話聞かんとですよ。いんやフリーゲージでいい、山陽新幹線乗り入るっさって（笑い声）いう声を聞くのは、それこそ佐賀県の担当の方ぐらいしか私は今まで聞いたことなかとですよ。（「そうそう」と呼ぶ者あり）それでできるって言っているところが、ちょっと私自身が信じられんごた感じなんですけど、これですね、県はそういうスタンスかもわかりませんが、でも実際、県は全体のことは考えてしよんさーかもわからんばってん、我々は武雄のことをやっぱり一番に考えんばいかんとは思うとですよ。

なおかつこれは新幹線ってなれば、武雄だけ、佐賀だけじゃなくて、長崎だったり福岡だったり日本全体にかかわることじゃないかなということで、まあ新幹線の活用プロジェクトの参加者の方が言いよんさったと話を聞きました。私はもともとの出、大阪って。でも私は大阪ばってん、武雄にもうずっと長う住んでますって。死ぬ前に1回その新幹線で、大阪まで行きたかって。自分の生まれ育った大阪まで行きたいって話ば聞いたとき、おいもうジーンってきたですよ、ほんて。おいその場で話は聞いとらんとですが、あとから聞いた話なんですけど。

そういうふうなことを考えればですね、やっぱり武雄として今動くべきことが私はあるんじゃないかなと思うんですけど、これについて市長の答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず前提としてフリーゲージに対する、私の見解を述べたいと思います。

先日、新幹線とまちづくり特別委員会の石橋委員長と一緒にフリーゲージの試乗にも行ってきました。130キロで走りますもんね。みどり号とかかわらないですよ。揺れも音も、そんなにかわらなかつたです。さらに言うと乗りかえが必要、軌間変換装置で車輪が狭くなったり、広くなったりするのも物すごく時間がかかると。安全性にもまだ不安がある。まさにさっきおっしゃった、安全性、高速性そういったところには、私は疑義を持っております。あわせて関西への乗り入れ、多分無理でしょう。

先ほどありましたように、みどり号の、今の博多のホームに入ることを前提としてですね、恐らく今の過密な、新幹線、博多駅に入るのは、考えてないんじゃないかなと思っています。そういうところ含めまして、フリーゲージというのはまあ事実上無理でしょうというのが、私のまず見解です。じゃあどうすべきかというときに、やはり最初ですね、リレー方式で暫定的にスタートすると。

そこでは、先ほど松尾初秋議員さんのときに答弁したように、いかに集客をするかという点も、発想も必要だと思いますけれども、ゆくゆくは私はやはりそこはフル規格というのは、

従来から申し上げているスタンスと変わっておりません。

長崎のほうも、そういった各市気運が高まっております。ぜひ沿線5市として、これは武雄市も当然ですけれども、西九州のハブ都市として武雄市もそこは先導して5市の首長でも意見交換をして、JR、国等にしっかりと要望をしてみたい。

そして、財政等のスキームを変えるというところもしっかりと要望をしてみたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

やっぱり、もう要望ばしていくしかなかと思うとですよ、私も。

そのリレー方式、フリーゲージも軌間変換装置に、要は先ほど言いました車軸の幅を変更するのに時速——あれ5キロやったですかね、15キロやったですかね、そんぐらいやったですよ。とにかく5キロから15キロぐらいの、もうゆっくりのろのろ運転で変更していくとですよ、車軸の幅を。だけん、フリーゲージでも恐らく全部武雄にとまるとは思うとですよ。リレー方式はもちろん、リレーやけんとまりますよね。フリーゲージでもとまると思うとですよ。

ただもう思いかえせば、鹿児島新幹線、新八代でリレー方式やったでしょ。私たちが新幹線の視察とかでもいろいろ行きましたけど、新八代の駅の視察以外は新八代でおりにことはなかったとですよ。新八代で絶対とまあけんがって。絶対そこで乗りかえんばけん、新八代にとまるばいっていうごた話は、私はなかと思うとですよ。

多分、武雄に目的で来る人やなからんと、武雄の駅でおりにくんさって、武雄が必ず電車のとまる駅やけんって言って、武雄に来てくんさって、おいそんな馬鹿な話はなかと思うとですよ。やっぱり武雄目的で来てくれる人ばふやさんばいかんて、私はずっと常々そがん思いよるわけですよ。

今回、まあ市長もあわせて、武雄市として、沿線5市ネットワークとしても、いろいろアクションを起こしていただきたいなと思います。

ここでひとつ、市長にもちょっとお願いなんですけど、フル規格化の決起大会かなんかせんばいかんやなかかなって、私は個人的に思ってるわけなんですけど、そこら辺については市長、どのようにお考えですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

そういうことも必要だと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

というのはですね、先日長崎の諫早のほうでは、そういう会合があったようですもんね。話を聞いとるところでした。

県選出の国会議員の皆さんと話をして、もっとやっぱり地元から声ばあけてくいろって。フル規格の声ばあけてくいろってというような話が、やっぱり言われるとですよ。ただ我々は、いやもう議会でも意見書出しとるですよってというような話をするんですけど、やっぱりそのあたり、もっともってってというような感じやけん、ぜひ具体的に考えていただきたいなと思います。

それでは、次に進みたいと思います。

次に公共施設の総合管理計画について。公共施設等総合管理計画イコール、アセットマネジメント計画ということなんですが、今、市内の公共施設が10年後には築40年以上がもう半分になるよと。今後、40年で財源不足額が395億円にのぼりますというような話であります。なおかつ、今後は人口減少社会で、10年間で幾らって、700万人って言いよったですかね、人口が減っていきますよというようなところで、今、武雄も合併前の施設が——合併してもう10年になるとですよ。合併してもう10年を越えて、公共施設のあり方を考えんばいかんということで、アセットマネジメント計画を進めていくという答弁でありました。

あらためて伺いますけれども、そのアセットマネジメント計画のねらいを、あらためてお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

公共施設等総合管理計画につきましては、今議員のほうから要点について御説明をいただいたというふうに承知しております。

まあこのような数値上の危機が、10年後には半分以上が老朽化をしてしまうと。40年以上の建物がふえてくるというような状況でございます。当然、財政の状況も逼迫していくということが予想されているわけでございます。現在の施設をそのまま維持管理するということは、財政上も非常に厳しいと。

また、人口減少、これは武雄市にとっても同様に見込まれるところであります。施設の規模を、適正な数値にしていくということ。それから、安全性を同時に確保していく。それから、建物については長寿命化をしていくと。こういったことが求められているというふうに考えております。

今回の策定します計画では、これらの方針を具体的な目標数値、これを大きな目標数値と定めまして、今後は各建物、各分野における建物の個別計画、これを作成する必要がございます

ますので、こちらのほうの策定の大きな指針とするというのが今回の計画のねらいでございます。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

施設の規模を適正化していく、今後は個別の施設をっていうことでありましたけれども、そもそもですよ、さっき答弁でもありました基本方針は3つあるということで、こういうふうに施設量の適正化、長寿命化、安全確保、耐震化というようなことで話が出ておりますけど、大体おおむね、これまとめれば武雄市の公共施設っていうのは、まあ統合されるものか、廃止されるものか、売却されるものか、更新されるものかと大きくわかりやすう言うぎ、こういうことですよ。ざらっといけば。と思うとですよ。

今後は、個別の施設についての検証をやっていくということですよ。ということになると、もうますます廃止、売却、統合、この辺が主になってくつとかなと思うとですけど、武雄市の施設として見た場合にやっぱり統合となれば、ここに充実も一つやっぱり頭に入れとってほしかわけですよ。適正化をします、縮小します、そういうの縮小すつけども、縮小するかわりにここは充実させますよっていうような考えを、ぜひ持つといてほしいなど。まあもちろんお持ちだと思いますけど、大体はですね、ちょっと今後どが手順でって、先ほど個別でっていうことでありましたけど、その個別の洗い出しなり何なりはどのような手順で進められるわけですか。そこをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

施設ごとのニーズ、それから利用の状況、こういったものを個別に細かく分析をしていきまして、そしてそれらを踏まえたところで各施設の今後の取り扱い、統合するのか、あるいは廃止をしていくのか、こういった個別の施設ごとに方針を細かく分析をした上で決めていくというようなやり方を今後進めてまいります。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

個別で統合するのか、廃止するのかを決めていくって、いつまでにしていく予定ですか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

現時点で最終的な個別計画の完成の時期、これについては現時点では決めておりません。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

時期を決めてはいないけど、個別でやっていくということですね。結局のところですね、このアセットマネジメント計画っちゅうのは財源不足によっての削減、廃止しかなかとかなってというような感覚で受けると思いますよ。スポーツ施設にしろ、社会教育施設にしろ。例えば山内、北方の両支所とか、その全体の計画が結局のところはもうお金のなかけんがということで、もう廃止して、もうわがどんでしいゆっしこらしかもちきらんけん、そいばどうやって減らしていこうかというふうにしかならんと思いますよ。

ただ、ある程度武雄市としても合併してもう 10 年たつとりますから、その方向というのはわからんではなかとですよ。もういつまでん、山内だったり、北方だったり、旧武雄市だったりって言い方もするともう、ちょっと私は違和感のあーごたふうなところなんですけど。

今後そういうふうにしていく上で、削減とか廃止を回避しようと仮にした場合、まあニーズによってとか利用状況によって変わってくるかもってというような感じの答弁で、ちょっと私は受けたとですけど、これからその施設として今後のことを考えれば、残された道はどがんことなのかなと思うとですよ。というのが、例えばですよ、民間でもうちがそれば買っていうごたところも出てくっぎ、それはもうもちろん、いやもう売りますよっていうふうになるもんなのか、そこら辺どうなんですか、考え方として。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

公共施設としての施設を、直接市が引き続き所有し管理をしていくのかということと、もう一つありますのは、公共施設としての役割は乏しいが、まだ施設として使えるといったようなケースが想定されるとすれば、それを民間で引き受けて当該施設をそのような機能を保った状態、あるいはプラスアルファを工夫して民間のノウハウを入れて引き受けてもいいというような、そういうニーズといいますか市場があるとすればですね、それも今回の計画の中でも当然考慮すべき点だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

それはもう民間としても、そこでここやったら引き受けてもよかよというようなことがもしあったと仮に想定した場合でも、でも個別で計画をしていく上では期限はわかりませんが、個別で取捨選択をしていきますよって。いつになるかわからんとば待つとくよりは、

そこもちょっと情報としてとりあえずその計画にのっかるとる施設はもう全部オープンにして一旦投げるという手はなかですかね。

というのは、もうその期限のいつにな一ぎんた——アセットマネジメント計画のその指針だけでもですよ、結構長うかかってきとるわけでしょ。こいから今度また個別になってな一ぎ、もっとまた期間ばかり過ぎていくとやなかかなと思うとですよ。

そいぎ、さっき最初に出しましたけど、10年後には築40年ば越えるところがもう半数になるよって。なっていくぎ、もうあとじゃあもう築40年、もうほんな目の前になったごたつてな一ぎ、なおさら、いやもうこいば今からおいどんで手ば入れろってしたけんて、もうお金はもっとかかーばいの一とかっていうような考えもあるもんやっけんですよ。

よかったら、もっとアグレッシブに、こうアクションを起こしてもいいんじゃないかなと思うんですけど、そこら辺どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

今回の計画につきましては、今年度、今月中には公開をさせていただくということで進めとります。その後に個別計画ということになります。

その個別計画の中においてはですね、今回の計画書の中にも盛り込んでありますが、いわゆるこのPFIだとかPPPという民間のノウハウを使うということも書かせていただくということにしております。

当然その手法、どういうふうなやり方で民間ノウハウを生かすかという具体的なやり方、これについては当然、考えるべきことだというふうに承知しております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

まあ財源が395億も足らんとするということなどが見えとる以上は、やっぱり私もさっきの答弁と一緒に、PFIとかPPPをとにかく活用してやっていくしかなかってしか思わんとですよ。

じゃあ、それしかないって、もう残された道はそれしかなかろうもんっていうような感じではおるとですけど、じゃあ実際それが具体的にどうやって、そのアクションにつなげていくかってなると、やっぱりその情報として、武雄市の今の施設がこうですよ、適正金額としてはこんな感じで考えとるとか、施設の耐用年数はもうこれぐらいですよとってっていうの、やっぱりその情報ば一度に公開してもらって、その中で例えばここはうちが、ここちょっと運営したかというようなことができれば、それがまたプロポーザルじゃなかばってん、いやじゃあA社とB社と手の挙がるとる、どこも挙がらんかもわからんばってんですよ、A社、

B社と挙がっとうぎ、A社のほうが武雄市としても条件としてはよかよねって考えれば、じゃあA社のほうでもらおうっていうごたふうになると思うけんですよ。

そいが個別の、その分ができあがってからってな一ぎ、また多分それから何年ってかかると思うけんですね。ぜひちょっと積極的に考えてもらいたいなと思っております。

ここで一つ、ちょっとその住宅関連での御提案なんですけど、みやき町で定住促進PFI事業というのがあるとですよ。定住促進PFI事業イコールBTOって、ビルドトランスファーオペレートやったかな、意味はわからんです、横文字の意味は。ただし、ここに書いてあるように、官が所有する開発用地に選定された民間事業者が、新たにもうそこに設計、建設、工事、管理した後、できあがった後に、庁に施設の所有権ば移転させるって。

そのつくった民間事業者が、所有権移転後の事業期間中にかかる維持管理運営を遂行するっていうふうになっとうとですよ。

今回、武雄市の議案としてもあがっとうけん、今のそれにはふれませんが、武雄市の市営住宅関連も積極的にやっぱりこのPFIを導入してっていくべきじゃないかと。

今から今回の議案にどがんかせろっていうわけではもちろんなかですけど、次んとははですよ、もうこういうのを運用できるように、ぜひちょっと考えるべきではないかなと思えますけど、これについての答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

住宅につきましては、財源の調達という面と、ただいまのみやき町の例でございますが、その後の管理という2つの視点での民間活用の例かなというふうに承知しております。県内でも、このPFIを使った事業というのは非常に少のうございますが、その中でもみやき町のほうは積極的にやられているというふうに承知しております。

当然、これらの手法につきましては、担当部局も含めまして市全体として財源調達の新たな方法としては、強い関心を持っているというような状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

強い関心を持っていただくまでで終わらんごとですね。末安みやき町長もかなりやり手やけんですね、やっぱりここら辺上手な一と思いながら、このあれを見ておりました。まだホームページとかにもいろいろ資料が出ておりますので、ぜひ研究して、武雄市でも運用できるように今後検討を考えてもらえればなと思っております。

そうです、もうまさにそうなんです。武雄市の市営住宅も、もう既に指定管理者制度の活用で、民間企業で運営ばしてもらいようけんですね。もう簡単かなと思うとですよ、結構、

比較的。そいぎまあ一応、改築、ここですね、同様の手法をぜひ考えてもらいたいということで、次にいきます。

本庁舎の建設工事ということで、今工事をやっております。平成 30 年 5 月執務開始予定で今動いているというふうに聞いております。完成は 3 月ぐらいですかね、3 月ぐらいで 5 月。完成よりも執務開始が一番の、市民の皆さんにとっては一番関係するのかなと思って 5 月の執務開始というところで載せてはおるわけですけど。そうなった場合に北方支所、山内支所、この両支所は今後どうされるのか。今何となく、聞き及んでるところでいけば、その新庁舎ができれば、それに全部集約をするというような話を伺っておりますけれども、そこら辺を、改めてちょっと確認をしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

北方支所、山内支所につきましては、まずこうあれですね。建物については、今策定していますアセットマネジメントの基本計画、これに基づいて早急に考えていきたいというふうに思っています。

そして、組織の部分ですけれども、こちらにもありますとおり本庁舎、新庁舎での業務が平成 30 年 5 月から業務が開始されるということで、これにあわせまして支所のすべての業務を本庁に集約をすると、そして支所は廃止をします。

まあ廃止する一方で、やはり行政サービスの低下をおさえるために、住民サービスコーナーのような、住民に身近なサービス機能は両庁に設置をしたいというふうに考えております。これにつきましては、今後関係機関とも協議を行いまして、議会の皆様の御意見もいただきながら進めてまいりたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

まあ廃止をすると、全業務を新庁舎に集約して両支所は廃止をします。住民サービスの少しの部分だけは両支所にも残すということですね。であれば、これは僕の個人的なあれなんですけど、両支所にその住民サービスの基本を残すようであれば、ちょっとというぎ全町の公民館にそいば持っていくしかなかとやなかかなと思うとですよ。

もう合併して 10 年たつわけやっけんですね。たつて、そこで住民サービスの根幹の部分だけは残すというのであれば、9 町全部がそいば持っていてもよかろうもんって考える僕はおかしいんでしょうか。何となくそがん思うとですけど、まあわかりました。

そしたら、今後この両支所の活用方法については、今構想があるのでしょうか、ないんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

両支所の建物としての取り扱いについては、ただいま市長のほうから答弁申し上げたとおりであります。

現状といたしましては、両支所とも外部の公的な団体の方々等にも入居をしていただいております。こういった方々との、団体等との状況もございますので、この建物について具体的な今後の扱いということにつきましては、十分御協議が必要だというふうに承知しております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

まあ、とりあえずは今既存で、活用してる団体さんもおんさ一けんがっちゅうことですね。というのは、やっぱり思うとですよ。もう合併して10年たっとうけんが、あんまりその両支所って、まあもちろんでも住民のサービスのことを考えればどうなのかなっていうとはもちろんあるとですけど、もうそれでも合併して10年はたっとうわけやっけんですよ。

ちょっとまあきょう、佐賀新聞さんとしゃべりよったとですけど、佐賀新聞のお悔やみ欄も、おいず一と違和感のあるとですよ。なんでかちゅうぎ、武雄市の北方町だれだれさん、武雄市山内町だれだれさんとなっとうわけでしょ。全部じゃあ載せろさ町ばって、言おうごた一ですもんね。若木町だれだれさん、武内町だれだれさんって。何で北方と山内だけ今までんごとそがんして。もう合併して10年たつとに、そこだけ分けて載すつとかにゃ一って。おいず一と違和感があって、きょう言うたばてん、そい見にく一なるけんがって言われたって言いよんさったばってんがですね。そこんたいこそ、もうやっぱり合併して10年、もう一つのオール武雄になりようわけやっけん、そがんとこからやっぱり考えていかんばじやなかかなと。北方町、山内町ってすつとやったら、西川登町、東川登町とか全部そういうふうに全部せろさて。そいなら、わか一わけですよ。そいけん、ちょっとそこに違和感のある私がおるわけですけど。まあ武雄町もんが言うなって言われるかもわからんばってんがですね。やっぱりそこんたい感じるとこのがずっとあるわけですたい。

そしたら次の質問は、今度両支所から今度は本庁の跡地の部分ですね。

今の現状の場所が、こちらですね。ここまでか。今回、このJA佐賀みどり武雄支所の跡地に今建設中でありまして、この跡地利用の構想はどのようになっているのか、答弁の想像はつきまして改めてちょっと1回聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

現在の庁舎の跡地についてでございますけど、こちらのほうは現在白紙という状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

今白紙と、今後のそういう利用についての構想はっていうことでまあ聞いたんですけど、白紙。それプラス、議会の特別委員会のほうでっていうことの答弁も一緒につんのーてくっかなと思ってたばってんが、そこら辺どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

この庁舎の建設事業につきましては、議会の特別委員会のほうで一緒になってこれまで議論を積み重ねてまいっております。

当然、現在の庁舎の跡地の活用につきましてもですね、議会の皆様との協議を重ねながら進めていくべきものだと承知しております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

私もその特別委員会の委員の一人やっけんがですね、まあちょっとあれですけど。

そいぎですよ、今の、現段階の流れからいけば 30 年 5 月には執務が開始されるわけですよ、新しい庁舎で。となれば、ここの跡地利用の構想は具体的にいつまでに結論を出してもらいたって、その特別委員会なり何なり、まあもちろん行政と一緒に進めていかんばと思うばってんですよ。30 年 5 月に新しかほうでもう執務の開始するわけやっけん、30 年 5 月にその新しか跡地利用の構想もできたけんて遅かっちゃんかかなって私は思うとですけど、そこら辺はどがん考えでもってあるですか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

市の執行部として、現在の跡地の跡活用、これについてどのようなスケジュールで議論をしていくのかといったような素案を、実際まだ持ち合わせていないのが現実でございます。

しかしながらまちづくり、まあ新幹線がやがてやってくると、それからこども図書館ができる、あるいは新しい庁舎が 30 年 5 月にできるということで、町並みの形も変わってまいります。そうすると、そこで現在の庁舎の跡地、これをいかにまちづくりに活用していくのか

という観点での執行部としての検討も必要になってくるというふうに思いますが、現時点ではまだそこまでの案、それからその議論のスケジュール、これについては申しわけございませんが、現時点で執行部としてもできていないという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

市民の皆さんの関心事から言ってですね、どっちかっちゅうたらここで新しか庁舎のでくっとよりも、今んところはどがんなるとやというほうが、よけい関心ば持ってあるですもんね。

私たちも基本、しょっちゅう一番最初に聞かるとは何かなといえはそいでもんね。そいけん、今の答弁からいけば 30 年の 5 月である程度執務開始が始まって、まちづくりのビジョンがまあ何となく今の全体像が見えてくるって、そっからはじむっていうごた格好にな一わけですか。おい、それじゃ遅かと思うとばってんがですね。いや、そがんしか言われんもんかわからんばってんですよ。おい的にはやっぱりある程度もう早う、早目、早目からいろいろ話をこう検討をしていかんぎ、ここら辺の皆さんも、住民の皆さんもどがんな一と、どがんな一とって言うことで、下手すんない話の一人歩きすっケースだあってあるとやなかかなと思うとですけど、そこ全体構想、市長どがんお考えですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

30 年 5 月に新庁舎に移って、恐らく 30 年度中には現庁舎が解体されるということだと認識しております。

ここについてはですね、繰り返しになりますけどぜひ 29 年度において、庁舎建設等特別委員会で精力的な議論をお願いしたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。そがん言うていただくぎ、私たちももっとけつば叩いていかるんもんやけんですね。委員長さん、頑張っていきましょう。

そいぎ、次にいきます。

35 年に佐賀国体が開催となります。その佐賀国体、今現状の計画でいけば武雄市における開催種目はどういう感じになってるか確認をします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

平成 35 年に予定されております佐賀国体の競技種目でございますが、平成 29 年の当初です、そのすべての競技種目が県のほうで確定されるということでございますので、あくまでも内定の状況でございますけれども、現在内定しているのは、自転車競技のトラック競技でございます。

それから、そのほかにも県の事務局からはゴルフ競技についての打診がなされていると、そういった状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

29 年に確定がされるということですかね。内定ということで、まあ今自転車、トラックそれからゴルフが今打診がきてると。自転車、トラックは当たり前ですよ。競輪場は武雄にしかなくとやけんですよ。ゴルフは県内数ある中で武雄を選んでいただくというと、ありがたい話かなと思うんですけど、ちょっとまあ隣の芝生は青いというわけではなかとですけど、ちょっとお隣の嬉野市です。

みゆき公園、嬉野総合運動公園。平成 23 年、ここに全天候型屋内多目的広場のみゆきドームがつくられてます。平成 25 年、みゆき競技場、ここにありますサッカー場、ここが全面人工芝になされてます。だけかと思えば、またこれですね。先日ちょっと私も講演を聞きに行ったんですけど、リバティ。こういうちょっと見れば、複合体育館みたいな感じですよ。公園が、こういうホールがありの、あとの部屋の施設では卓球しよ一人の部屋がありました。ダンスをされているところもありました。

もうそこまで写真ば撮ろうかなと思ったばってん、ちょっと幾ら何でも何か盗撮チックな感じなるけん、ちょっと写真は撮らんやっただとですけど、ここのホールはありますけど、ほかそれ以外の施設は基本的には体育館みたいな感じですよ。複合体育館的な施設です。

嬉野、こんだけ積極的に動きながら、またさらに体育館の建設の話もあるそうです。そういう話を伺っておる中で、武雄市はさっき、国体じゃあどがんやっとなったときにそういう話でした。自転車とゴルフ。やっぱりもっとスポーツ施設、考えていかんばとやなかかなと思うわけですよ。

よその地区、自治体においてはですね、積極的に施設整備にどんどん、どんどんやっぱり動いておられますもんね。武雄市として今後、その施設に関する考えとしてはどうですか。答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

佐賀県のほうでは、市町の施設整備に対して応分の補助を行う予定ということで情報が入

ってきております。率にして、2分の1程度の補助を考えているということでございますが、あくまでも国体競技の施設基準を満たすための整備にとどまるであろうというようなことでございます。

現段階では、施設整備をも前提に、それを視野に入れたところの競技種目の選定は行っておりませんが、スケジュール的には平成30年度中に各市町に競技種目が割り当てられると考えられますので、いろんな条件を勘案しながら武雄市として最終の方針を決定していきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

とりあえず、佐賀国体をにらんでのところで答弁をいただいております。

過去これまでもですね、武雄市としてはもう施設整備計画に基づいてやっていきますという話をこれまでも何度も伺ってまいりましたが、じゃあよそはこんだけどんどん、どんどん施設考えていきようというふうで、もうぜひ武雄も考えてほしいなと思っております。

これちょっと見えないと思っておりますけど、これですね、佐賀県のスポーツコミッションのホームページなんです。県内の施設の紹介ということで、今出していますけど、これ見えんでよかです。見えんでよかですけど、拡大しても見えません。多分見えんでしょ、そちらからですね。そんな感じでちょっと拡大しますけど、県内のスポーツ施設の紹介を、佐賀県のスポーツコミッションが紹介ばしよるとですよ、ホームページ上で。それ見たらですね、北部エリアからずっときとうです。唐津の河畔公園から波戸岬のほうだったり、いこいの広場、国見台の公園、北部は唐津市文化会館ということで、まあずっときてます。今度中部エリアになりましたら、緑の森のある森林公園ですね、そこら辺がずっと、ずるずるとあってます。これが、こんだけの資料が1ページ目です。

2ページ目にいくと、こういう感じでブルースタジアムからあり、フットサルクラブ、芦刈文化体育館とか、もうとにかくずるずる、ずるずる中部エリアが、がーって出ています。これが2ページ目の情報です。

全部で3ページあったです。3ページ目見たら諸富の文化体育館からずっときて、まあやっと西部エリアに入りました。西部エリアに入ったら、嬉野市体育館、それから嬉野市のみゆき公園。武雄が1個出てきました。何と思うですか。これ多分見えんと思うけん教えてください、FOOT-iです。

ここに普通ない白岩運動公園なり、何なり出てこんばいかんとやなかかなと思うんですけど、FOOT-i、これ民間でしょ。民間のフットサル場が、佐賀県のスポーツコミッションが紹介しよった武雄のエリアでここだけかって思うて、もうホームページを見てむかっときとったとこやったとですけど。やっぱり武雄市も、ここに載るような運動施設をやっぱり

考えていかんばいかんと思うとですよ。国体ば主管する県の認識がこいでよかとやと。もうだけん、これクレームばあげんばっちなかなかないと思ひながらおりましたけど。

嬉野市の事例をちょっと御紹介しますけど、先ほど言いました、嬉野総合運動公園のみゆき競技場が、改修工事で1億5,750万円で全面人工芝に張りかえられてます。それ以外の工事も全部ひっくるめて、これ全部体育施設の整備関係ですよ。3億4,000万円。このうちの半分、国庫支出金で賄われとうとですよ。

やっぱこがんで、よその市が力を、頭を使って施設の整備にいきようわけやっけんですよ。武雄市もアセット計画で沿っていくというのは見えてますけど、施設の充実を求めたいと思います。改めて答弁を最後お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

PFIなどの手法も使ってますね、そこは財政面も考えて、そしてあるべき施設、これについてはスピーディーに決めてまいります。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

以上で終わります。

ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で10番上田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10分程度休憩をいたします。

休	憩	14時21分
再	開	14時30分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次に、20番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきました。一般質問を開始したいと思います。

もうすぐ桜の季節ですね。川内のジラカンス桜です。

きょうの項目は、観光定住まちづくり、住みやすいまちづくり、そしてスポーツ、教育スポーツ施設、大まかにこの4つをやっていきたいと思います。

1年前ですね、ちょうどここに立ったとき、テーマを決めて質問をしました。そのときは、

1年前のテーマは鉄は熱いうちに打てという言葉をごここで使わせていただきました。きょうは、これで行こうかなと思っています。お家芸。

お家芸っていろいろありますよね。例えばオリンピック。この前のリオオリンピックでも、ウエイトリフティングの三宅選手ですか、あれでもメダルをとって、それからメダルラッシュで、どんどんどんどんってほんとにすごいなっていうことがありました。オリンピックで、お家芸っていうのは大体何を指すかわかりますか。オリンピックでお家芸っていうのは大体柔道なんですね。でも柔道の選手はですね、すごいプレッシャーで私から言わせるとかわいそうなどがあるんですね。例えば銅メダルとか5位とか6位でも、すみません、もう流れを止めてしまって。5位とか6位でもすごいじゃないですかと思うんですけども、何かお家芸のオリンピックという金ばとらんぎいかんというような感じで、そういうプレッシャーがあるんですかね。もうほんな銅メダルって、メダルとっただけでもすごいと思うんですけど、なかなか大変だと思います。だって、オリンピックっていうのはもう4年に1回。4年に1回のたった1日に、みずからのピークを持ってかなきゃいけない。本当に大変だと思います。どんなに頑張っても、どんなに汗をかいても、どんなに苦勞しても、その一日で報われないという日もあるんですね。そういう気持ちで、私の質問も聞いていただければ、これから頑張っていきたいと思います。

1つ目の質問ですけども、合併後、武雄市は全国に名をはせたと思います。そういう意味で、武雄市、武雄市役所のお家芸っていうのはどういうもののでしょうか。考えられる、まあぱっと思いついた分でも構いませんので、小松市長何かありましたら、まず考えられるのを挙げていただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

そうですね、お家芸というと、まずぱっと思いつくのが情報発信というところが出てきます。

あとは、やはり時代をとにかく先取るというところ。きょうも教育に関する答弁もありましたけれども、とにかく県内初、九州初、日本初、初物にこだわるというかですね、初めてのことがすべていいことかっていう話はあるんですけども、やっぱりそれだけとにかく時代の先取りをして、そしてどんどん、どんどんいいものを先んじてやっていこうと、そういうふうな気質ではないかと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番 牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

まさにそうだと思うんですね。情報発信能力というのは、すごいものがあると思います。

そして先取り。まあ先ほど日本初とか、九州初とか佐賀初ってのがありましたけれども、そういうのを多々連発しておりました。

そして何よりもそのスピード感。やっぱり決めて——ある意味今まで行政というのは、本当にスピードが遅いもんだと思われてたのが、ところが下手な企業よりも早かったときがある。そういうスピード感というのが、物すごく武雄にとってのお家芸じゃなかったらどうかと思います。

そういうのも加味しながら、質問に続けさせていただきますけども、これタケさんぽですね。タケさんぽ、これは黒髪山。黒髪のタケさんぽコース。これを考えながら、これまた実行する前にもう次の若木コースも手にされていたんですね。黒髪コースをされていたときには、もう半分これが開発というか終わってた。これがまだ半分終わってないうちに、北方コース、ずーっと矢継ぎ早にいろんなことを出されていきました。この北方コースが終わってから、次はどこってのはまだ伺っていないんですが、一つちょっとやっていただけたらどうだろうか。まあ佐賀県初じゃないですけども、これウォーキングのほうですよ。ウォーキングのほうなんですけども、これですね、ちょっと見にくいんですけども観光協会のホームページです。サイクリングですね、自転車。自転車のレンタルで、しっかり半日コース、たっぷり一日コース、ちょい乗りコースってのがあります。そういう中で——これちょっとすみません、拡大画像がなくて。たっぷり一日コースっていうのは、もうこんなコースなんですね。

ただ、観光協会の自転車というのは電動アシスト自転車。本当にこれだけアシストで全部行けるのかなと思うんですけども。実際その自転車っていう部分は、武雄は競輪場というお家芸があります、一つの。競輪場というお家芸があるんですけども、自転車ですね。1日コースじゃないですけど、自転車のこの貸し出し、私も観光協会所属しているんで、これを約数カ月前、10カ月ぐらい前から始めたんですかね。実際のサイクリングの貸し出し状況はどうか。自転車に対する、いろんな観光客とか何とかなの使用率はどうか、これちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

議員さん御紹介いただきましたレンタサイクル、通称タケちゃりでございますが、昨年3月から観光協会が取り組んでいただいております。本年1月末までの利用状況でございますが、（モニター使用）モニターお願いいたします。これがタケちゃりでございますが、タケちゃりの利用状況でございますが、利用者総数が875名でございます。1日平均しますと2.8人ということになりまして、うち外国人の利用者は全体の44%でございます。388人でございます。

左のほうでございますが、国別の利用者数につきましては48%が台湾の方でございます、あと30%が韓国、そして中国の方が14%という形に続きます。

開始当初から徐々に増加しておりまして、二次交通の手段としても定着しつつあるという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番 牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

私あんまり自転車乗らないんですけども、自転車熱っていうのが物すごく上がってきてるらしいんですね。

これはサイクリングのコース。現在、サイクリング人口というのは800万人いらっしゃるらしいです。さっきの何の人口だったですかね。何かの人口が、200万人か300万人っていう言葉があったんですが、サイクリング人口は800万人で、自転車販売店の、その中のロードバイク。ロードバイクってわかりますかね、ママチャリじゃないです。通勤用のアイテム。ちょっと次のページにいきます、こんな感じのやつですね。こういうやつの売り上げは、2003年と2013年で比べると、通常の5倍以上も売り上げが伸びている。ちょっと調べたら、13年から現在にかけてもさらに倍売れていると。

ロードバイクっていうのは、こういう形のやつなんですけども、これすごく高いんですね。多分これで50万ぐらい。（「へー」と呼ぶ者あり）50万ぐらい、高いやつのこれが、チタンとか何とかになったら100万超え。そういうやつがよく売れてるらしいです。（「へー」と呼ぶ者あり）

こういうふうな自転車っていうのは、執行部の皆さんも例えば車で行って、道路で土日とかヘルメットかぶって行かれているの見たことないですかね。近年急激にふえてきました。こういう形のバイクなんですけども、さっきは自転車熱が上がっているっていう証明をいただきました。

こういう中で、こういう格好して行かれている方、結構見ると思います。私は自転車じゃなくて、オートバイのほうに乗ってるんですけども、パーキングとか何とか、もうこういう感じをした人とかいっぱいいらっしゃるんですね。道でもよく見ます。こういうのがあるんでぜひ、佐賀県初、さっき初物って言われましたけども、佐賀県初、まあ九州でも2番目か3番目ぐらいの、このロードバイクの市内のロードバイクコースを設定できないか。これ、武雄に移住してきた方がですね、都会からなんですけども、ぜひこういうのがあればいっぱい来ると。例えば武雄で、周辺部でも町なかでもそういうポイントをずっと設定していく。特に、例えば女性の方もいらっしゃるんで、トイレもこういうところがありますよという設定をしていく。そういうふうにしたら、必ずオートバイはキャンプ道具乗せて行けるんですけども、こういう方々は宿泊なんですね。通常100キロぐらいは楽勝で移動されるんで、だ

からそういうのも加味して、初物とさっき言われましたけども、さっきタケさんぽコースの北方の次はどこだろうというふうなことあるんですけど、そういうあいなかにこういうのを入れて、ぜひロードバイクの武雄のコースをつくって情報発信をして集められないか。

もちろん楼門、例えばトイレだったら登り窯もありますよね、大楠もあります。いろんな例えば周辺部で、レストランも新しくいろんなところで作られました。そういうのも加味しながらつくっていただけたらいいと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

ロードバイクとなりますと、かなりスピードも出ると思いますし、かなりの距離、先ほど御紹介いただきましたように、距離も長い距離を走られるんだと思います。そういった面では、今後、その安全確保をどのようにするかというような課題もございますけれども、議員から御提案いただきましたように、観光協会等にも話をしまして、そしてその可能性につきましては探りたいと思っておりますし、それから何よりも立ち寄りスポットとか、グルメスポットなどもPRの強化もあわせてさせていただきたいと思います。

手法といたしましては、先ほど御紹介いただきました、このタケちゃりのマップのところをふくらませていって、その中にどのような観光資源がまだまだあるかという形の楽しみを織り交ぜながら、そういったコース設定をしていくのかなというふうに思っておりますので、それに向けて努力をさせていただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

20 番 牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

さっきマップ出しましたよね。ちょっと見にくかったこれ。電動付自転車で、これだけまだ無理ですよね、基本的に。アシスト 60 キロぐらいですね。今、長いやつでも坂道とか何とか 80 キロ、こんなちょうどいいじゃないですか。こういう形でつくってできれば、ぜひやっていただきたいと思います。

きょうはなんか答弁が、午前中は古川部長さんが多かった。市長さんの出番がなかなかないんで、市長さんぜひつくっていただきたいんですけども、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まさに、今あるこの観光協会のこれを活用してやりましょう。

○議長（杉原豊喜君）

20 番 牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。お金がかからないんですね。ずっと財政の問題とか、ずっと前出て来ましたが、前の議会でも出てました。お金がかからないです。ぜひやっていただきたいと思います。

では次の質問ですけれども、次は武雄焼。

武雄焼ということで近年武雄の焼き物を売りに出されています。そういう中で、武雄焼というのがどの程度振興しているのか。いろんな百貨店での展示会、そして物産展とかでの展示会。いろんな分でPRされてると思います。どうなのかというと、私はちょっとあんまり詳しく——まあ観光協会にも入っているのであれですけども、どの程度、物すごいスピード——さっき言った情報発信能力ですね。武雄が持つような、どれぐらい拡散しているよとってのは、なかなか計り知れない部分もあります。

で、その中で、これ私ですね、わかりますね、下向いてますけど。山崎議員さん、古川議員さんで栃木県の益子町に行ってまいりました。益子町は九州じゃあまり知られてないかもしれないけれども、関東では割と知られている益子焼、これも全国的な分だと思います。益子焼の、どうやって益子焼っていうのをPRしていったのかっていうのを勉強に行きました。いろんな手法が使われています。益子焼——たっぷりここ、プロジェクターを使って3時間ぐらいですかね。3時間か4時間しっかり勉強させていただいたんですけども、いろんな手法でやっています。

その中で、1つこういいなっていうか、我々が勉強に行った大きな源の1つがですね、益子焼は国内では、有田焼、信楽焼、多治見焼、いろんな強大なライバルがいて、なかなか難しいからってということで海外で、海外のほうに進出されています。これ、何で知ったかというと、トランプが、トランプって呼び捨てにしちゃいかんですね。トランプ氏が大統領になったときに、ニュースで出たのが、益子焼アメリカ進出に暗雲ってのがヤフーニュースで出たんですよ。それで知ったんですね。何で海外に行くか。それはさっき言った、国内には強力なライバルがいる。

まあそういう中で、海外のいろんなところに営業に行って、焼き物がまだ、日本の焼き物というのが認知されていないところに営業に、いろんなところに行きながら、そこで広げていっていくと。ひよっとすると、逆輸入バージョンになるかもしれない。そういうところを、力を入れてやっているということで、興味があって行かせていただきました。

それだけじゃないんですけども、そういう中で議長さん、副町長さん、ほんとに長い、長い時間をかけて……（発言する者あり）いろんなことを教えていただきました。目を開けていらっしやいます。（笑い声）ちゃんと勉強させていただきました。（発言する者あり）（笑い声）すみません。（発言する者あり）

いやいやいや、すごかったですね。とにかくですね、こんな厚い冊子をどんどん説明され

ていっているんで、やっぱりそれだけ物すごい授業量されていました。勉強してわかったのは、やっぱりそういうところに行かれています。

これは、どれだったかな、ちょっとごめんなさいね。海外の分でいいなと思うのが、例えば私が例でよく言うと、インドで一番売れている車は何かわかりますか。インドで一番売れている車。インド。シーンとしていますね。スズキなんですよ。スズキがシェア 40% 持っているんですよ。トヨタ、日産あわせて 5% 以下ですよ。何でなのかと、理由はネットで調べればすぐわかりますけども、最初にインドに営業に行ったのが、車メーカーの中で営業に行ったのがスズキだから。簡単な理由ですね。

これちょっと、何か外国みたいでしょ。外国みたいですけども、これは北海道のニセコ町です。北海道のニセコ町、英語看板いっぱいですよ。

一時期バブルのときに、ニセコはすごく売り出したんですけども、バブル崩壊して本当々張みたいな感じで大変だったらしんですけど、そこで活路を見出したのは何かと。インバウンドと海外からのスキー客、国内はもういい。海外からのスキー客を誘致しようということでオーストラリアに——当時まだ未開発の地だった、まさかオーストラリアから日本にスキーに来るっていうのは、だれも考えなかった時期にオーストラリアに営業に行って、オーストラリアのバイヤーじゃないや、そういう人を 1 人連れてきたら、今ニセコは、今っちゅうかも 10 年ぐらい前からですけども、ニセコはもう北海道でも有数の人口増加地区らしいです。外国から、オーストラリアから移住者はどんどん来る。それにつられて、国内からも移住者は来る。そういうふうにはファーストアタック。海外に行って、焼き物があんまりこう売れてないようなところに行けば、こういうことも考えられるんですね。

これがちょっと調べたら、ニセコ町は現在 4,900 人だそうで、人口。2035 年に 5,600 人をもっと予想されてるらしいです。逆に日本は、2035 年までには 12% 減になるだろうと。武雄市もその計算で、2035 年の人口計算をされてると思います。ところがニセコ町とかは、こういうふうになっていると。

武雄には、お家芸じゃないですけども、武雄には何かがあるか。海外のシンガポール支店、ありますよね。シンガポール。シンガポールにせっかくいらっしゃるから、シンガポールを起点に武雄焼をどんどん未開の地、未開の地って言っちゃあいけませんね、普通の皿使っているとどこにどんどん営業していただいて、武雄焼の名前をやっていく。

そういうふうに今——橘産米ですかね、橘米やったかな、オーナー制度とかやられると思うんですけども、そういうのもいいと思います。それも、すばらしいと思います。私も酒屋ですから酒の営業で回るんですけども、やっぱりそういうふうな営業、いろんな国に営業して、武雄焼を外国で有名にして逆輸入するってのも一つの手だと思います。

ぜひそういう、せっかくシンガポール事務所、海外に拠点を持ってるんですから、そういうふうな物の営業、武雄焼を、武雄焼ってこれも焼き物は武雄のお家芸の一つですから、そ

ういうやつをどんどん宣伝していただくっていうのは、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

牟田議員おっしゃったように、現在シンガポール事務所では笠原所長が本当に頑張っております。まさにこのシンガポールに事務所があるというのは、この武雄市の強みだと思っておりますので、ぜひそこは物産の輸出という中の一つとして、この窯業、これについても取り組んでいきたいと思っております。武雄の焼き物はたしか、東南アジアでもタイとかインドネシアに昔輸出してたと聞いております。

今、シンガポール事務所は、タイにも足を伸ばしておりますので、まさにファーストコンタクトでいうとタイというところは考えられるというふうに思っております。

あわせて、さがびよりのオーナー制で外国から来てもらって、こっちで田植えとかを経験してもらおうと。その機もしっかりと捉えてですね、お米とあわせて茶碗を売るといようなこともやっていきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

さすが市長、お米と茶碗をあわせて。ナイスアイデアだと思います。お皿もそうです。やっぱりそういうふうなセットで売っていくっていうのが、物すごくやりやすいと思います。お茶碗だけ持って売りに行くよりも、おいしい橘産米、橘産米に限らないでいいんですよね、武内産米、若木産米いろんなところをもって、これセットでどうですかとかっていうのができると思います。ぜひそういうので、シンガポール事務所あるんで、今度も予算倍額になっているんですかね、ぜひやっていただきたいと思ひますし。

あとですね、ちょっとさっき言いましたニセコ町でも、インバウンド事業でここまでになりました。やっぱりインバウンドっていうのは、物すごく大切。ニセコ町の場合は、数字が目に見えました。その人がやってて、連れてきたっていう数字が何人っていうのがすぐわかるんですね。県がどうしたこととか、北海道がどうしたことじゃなくて、もうその人の努力で何人ふえたっていうのがわかるんですよ。なかなかこっちはわからないんですけども、ぜひ輸出の営業っていうのはわかりますので、やっていただきたいと思ひます。

そして、次なんですけども益子町、勉強したのはもう一点。

益子町は移住者が多いんですね。それも芸術家の移住者が多いです。武雄も今、アートのやつやっていますよね。それと同じじゃないですけども、さっきの議長さん、副町長さん、胸を張って言われるんですね。議長さんが言われました。うちは、芸術大学及び芸術学部の卒業生の移住は日本一ですと。ここに、益子町は芸術学部とか芸大卒の人の移住は、日本一

って胸張って言われるんですね。町長さんとも副町長さんも、いえいえ、それだけじゃありません、海外からのそういう焼き物とか、いろんなアートの人たちの移住も多いですよ。さらに、人口当たりでおしゃれなカフェのある率もうちは日本一ですと。そうやって若い人がこぞ集まってきて、移住とかそういうふうなのがふえてきていますということで、物すごく力強く言われました。その辺も一緒に勉強させてもらいました。それがあって、益子町を視察先に選んだんですけれども非常にためになりました。

そういう中で今、これさっきの写真。これは一年前の写真ですね。東京銀座で移住フェアをやったときの写真ですけども、このときは武雄、物すごく人が集まりましたね。

今、一年前に質問したとき、武雄に移住相談の電話は月どれぐらいありますかって言ったときに、月 100 件以上あってますという回答を受けました。今現在はどのようなものか、どのような推移なのか。一年前は 100 件、これがふえてるのか、減ってるのか。

さらにもう一点。2 点いっぺんに聞きます。

もう一点はさっき言いました、芸術家、今アートのやつをやっていますよね。そういう芸術家とか何とかの、移住とか起業、武雄を拠点にして活動するとかいうのの特典、今度移住で特典出していただきましたよね、いろんな市外からの。そういうものは考えられないのか。

これちょっと戻しますけれども言われたのが、起業されるところにはちょっと優先して、空き家とか空き地とかを提供してますということで言われました。そういうところにも、芸術家さんが来られますと。

まあ以上 2 点、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

移住相談ということでございまして、前年度 100 件程度、月あったわけですけども、28 年度につきましては大体 60 件程度、多い月で 70 件程度という状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

残念ながら前回の 100 件から減ってるってことですけども、いろんな雑誌で今住みたい——宝島社でしたかね。住みたい市っていうのが何位っていうのが出てきてるんで、これがさっき最初に言ったお家芸の情報発信。どんどん、こういうすごいところですよっていうのを情報発信していただきたいし、武雄もそういう芸術家とか何とかっていうのは、結構やっぱり周辺部に芸術家の方住むらしいです、この益子町も。周辺部にそういう方がいっぱい住まれると、周辺部対策にもなると思うんですけども、そういうふうな芸術家とかアーティスト、そういうなの起業家っていうのの招致じゃないですけども、来ていただくような特

典みたいなのは考えられないですか。市長、答弁いただければお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先ほど牟田議員さんが宝島社のお話というふうにおっしゃいましたけれども、今回は宝島社の住みたい田舎ランキング9位でした。前回の3位からは少し下がったんですけれども、一方で、雑誌のプレジデントという全国で30万部ぐらい発行している雑誌では、移住したい町で全国9位だと。これ、ことし1月に発表されて、私も非常にびっくりしました。そういう意味で、一定の評価を受けている。ただ、これに甘んじてはいけないと思っています。

芸術家については、現在武雄温泉周辺、北部のところにクリエイターを外から集めようということで事業をやっております。これは、その中心市街地が盛り上がるのが最終的な目的でなくて、そこを経由して、そして実際にはそれぞれ周辺部も含めて住んでもらうというところまでつなげていきたいというふうに思っております。現段階で、ちょっとどういう特典があっていうところのアイデアはないんですけども、まずはその現在の町並み創造事業。ここについて、とにかくしっかりやって、まず1人でも2人でも、そこは実績をつくりたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

小松市長、ありがとうございます。益子町で、そうやって来る最大の移住の理由は何ですか、そういうふうな空き地とか空き屋の特典ですかって聞いたら、いいえ、違いますと。それは何ですか。うちが持っている自由な雰囲気とか、かぎとって来られますと。自由な雰囲気って何ですかって質問したら、例えばうちで焼き物をつくってもらおうと、それはどんな磁器であれ、陶器であれ、前衛作品であれ、それはすべて益子焼だと。

益子陶器市っていうのがあるときに、もう売る場所は決めないで、好きな人が好きなところに出してくれと。そこで売れたら、それはもう全部収入にしてくれと。とにかく自由にやってくれっていう、そういう雰囲気が物すごくうけているということでした。自由な雰囲気というのは、タダでございます。ぜひそういうのを醸し出せば、こうやって来られるかもしれません。ぜひそういうふうな御努力を、今度アーティストさん集めてやられるとは思いますが、ぜひそういうのも鑑みてやっていただければと思います。よろしく願いいたします。

では、次は住みよいまちづくりのほうに移りたいと思います。

前回質問したこれですね、ここ1年で質問終わった後、一番電話連絡とか連絡が来た前回の質問ですね。体の不自由な方々のパーキングに、車を健常者がとめるのが多すぎるんじや

ないかと、そういう機会をいつも見ると。例えば、ここに健常者の方がとめていたら、本当に不自由な方が遠くにとめていかなきゃいけない、そういう光景を何度も見ていると。そういう中で答弁が、啓蒙をするっていうところでとどまったんで、そのときちょっと時間なかったんでそれ以上言わなかったんですけども、その後ですね、何であの後もって言わんのかとか、何でだ、何もやらないのかって物すごくお叱りを受けたんですね。

今回も入れたんですけども、よくよく担当のほうに聞いたら、いろんなことをやってますということで、どういうことをやって健常者がここにとめないようにするのをやるのか、今後どのように考えてらっしゃるのかをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上くらし部理事

○井上くらし部理事〔登壇〕

前回の議会からの取り組みということではありますが、市内のパーキングパーミットの協力店、いわゆる大型商業施設等を中心にお伺いをしまして、現状等をお伺いしながら施設の管理者の方に注意喚起の対策レートを表示した文書を持って、対策の実施について協力依頼をお願いしたところであります。

ある大型店では、その後店内放送での注意喚起等により適正管理に努めていただいております。

それから啓蒙のほうですけども、市報の4月号での掲載、それからホームページのほうでも周知を図っております。

今後ですね、ケーブルテレビで放送をされている市役所だより等でも周知を図ってまいりたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうやってですね、ここでひょっとすると私が質問すること自体も、啓蒙になっているかもしれない。もう、これが3回目ですから。

あとですね、きょう山口等議員さんが、道徳の話されましたよね。例えば、道徳の授業の中でもこういうのを取り上げていただくとか。例えば道徳の授業で取り上げて、例えばお父さんとお母さんが一緒に行ったときにここにとめようとする、子どもがここはとめちゃいけないよって言うてくるかもしれない。そういうのも一つの道徳だと思います。これをやっていただく、やっていかないっていうのは、また教育委員会で、質問じゃないですから、それも一つ、そういうのも一つの方法だと思います。

もう一つよかったのが、先ほど言われた、店内で放送していただくのはいいですね。例えば、健常者の方がとめていてマークをつけていなければ、例えば店内で、ただいまパーキン

グパーミットにつけていない車がとまっていますけども、移動してくださいって言われたらそりゃ移動しますよね。

やっぱりそういうふうな手法をもって、本当に不自由な方々が使えるような形で。これがやっぱり武雄市の住みたい魅力の1つになるかもしれません。ぜひ、そういうのに力を入れていただければと思います。よろしくお願いします。では、次に移ります。

次はですね、シネマコンプレックス。これ、昔から僕思っていたんですね。何でシネマコンプレックスなんだろう。コンプレックスって、日本語に直すとわかりますかね。通常では、劣等感なんですよ、コンプレックスってのは。まあほんとは違うんですけども。何で映画の劣等感が複合映画館になるかなと思っていたら、このコンプレックスっていうのは複合という意味らしいですね。劣等感じゃないらしいです。コンプレックスっていうのは、複合施設。だから映画の複合施設、スクリーンが何個もある施設っていう意味です。

これ何で取り上げたかという、これ平成9年ぐらいに、昔1回質問したことあるんですね。何でかちゅうと、若い人からの、私にですよ、ほかの議員さんはわかりませんけれども、若い人から武雄に映画館をつくってくれって言われるのが物すごく多いんですね、若い人からの要望で。武雄、昔ありました。まあ僕はあんまり行ってなかったんですけども、ありましたけれども。映画館つくってくれと。映画館つくってくれっていうとこと、誘致してくれて人がいるんだけど、若い人多いんですね、すごく。そういう話をしてると、横から、ああ映画館、武雄にあったら私も行くって伊万里の若い子が言ったり、やっぱり何か物すごく言われるんで、ちょっとこうやって議会で取り上げたんですけども。

これですね、人口10万人に対する映画館数。これ九州の順位じゃないですよ、全国の順位です。全国の順位。1位福岡県、2位熊本県、3位長崎県、これ米印ちょっとつけます。8位宮崎県。九州が上位を軒並み独占してるんですね。ところが佐賀県、ここに小っちゃく書きました。佐賀県39位です。軒並みこっちは多いのに。みんなこっちに行ってるんですね、多分。ちょうどですね、私の知り合いに大型スーパーの店長さんされている——まあゆめタウンですけども、方に聞いたんですよ。映画館っていうのは、例えばゆめタウンとかイオン、あと何だっけ。もう1軒ありましたね、佐賀に。モラージュ。ああいうのはどれぐらいで成り立つのって言ったら、大体人口50万から60万人に対して1施設が成り立ちますっていうことでした。50万人から60万人。佐賀の人口80万人。

ただ、モラージュとイオンは佐賀のほうなんですよ。2軒固まってるちゅうか、近くにある。じゃあどうなのか、じゃあ無理なのかって言ってその店長に聞いたら、ゆめタウンが当初できたときに本当にゆめタウンが成り立つのかと。人口5万人、当時まだ武雄市でしたから、3万数千人のところで成り立つのかって聞いたら、いえ、違いますよと。武雄は佐世保とか、すべての商圈を含んでいますということでは言われてました。佐世保、平戸、松浦、川棚、波佐見合わせると40万人いらっしゃるんですね、40万人、あの辺。

さっきですね、長崎に米マークをつけたのは、これ長崎市とかあっちのほうに固まってるんですね。佐世保はですね、ちょっと古いのが1軒あるだけなんですけども、そっちのほうまで商圈に入りますと。佐賀県の中の武雄、伊万里合わせると25万人。2つ合わせると、65万人から70万人が商圈ですよということでした。50万から60万で成り立つとしたら、じゃあここでも成り立つんじゃないっていうふうな話をしておりました。

ゆめタウン自体が今、このゆめタウン、話を聞いたら佐世保からのお客がすごく多いと。佐世保のお客さんって、逆に我々佐世保行くときが多いんですけども、何でか知らないけど佐世保は進出断念したんですね、ゆめタウンさんは。大きいのを。

だからこういうので、これはできる、できないは、本当はできたほうがいいんですけども、やっぱりそういう誘致活動の努力をしていただけないか。例えば、ゆめタウンさんでいったら、こここのところにして、よくありますよね、ここ橋つくってとか何とか、どこでも施設。そういうのの誘致活動、誘致企業扱いでできないか、誘致活動ができないか。そのできる、できないは別として、さっき言った条件は整ってる。整ってる中で、あとはその企業が来る、来ないというのがあると思います。

これは繰り返しになりますけども、若い人から物すごく、私だけかもしれませんが、言われていることです。例えば、ぜひ武雄で——何だっけ、EXILEのHIGH&LOWの映画を見たいとかですね、いろんなこと言われます。ぜひですね、そういう誘致企業の、誘致の努力をしていただけないものかというのを市長にお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私も若い方から同じような声を聞きます。高校生とかですね。

あとはシニアの方でも、例えば奥さまと、あるいは旦那さんと2人でゆっくり映画を見にいきたいというような声も聞きます。

今、お話聞いてびっくりしたのはですね、私の認識は武雄は18万人の商圈だというふうに思ってて、シネコンはおっしゃるとおり50万人だと。これはなかなか難しいなというふうに思ってたんですけども、見方を変えればですね、武雄も50万商圈だ、ああじゃあ可能性はあるなというふうに思いました。

まあ、当然ビジネススペースで継続的に企業が経営判断をすることになるとは思うんですけども、これについてはぜひまた詳しく話を聞かせていただきたいなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先ほど市長はここでおっしゃいました。新幹線も鑑みて、西九州のハブになるんだって。ハブになったら 100 万人ですよ、その商圈も。ほんとにハブになりたい。ハブにするからには、やっぱりこういうのも必要だと。さっきパーキングパーミットでも言いましたけれども、そういうのが市民に優しい、そして市民も住みやすいついていうところにつながっていくと思います。ぜひ御努力していただければ、多分多くの方々が手伝うと思いますので、お願いしたいと思います。では、次の質問です。

次の質問は、先ほど似たような施設、上田議員さんが言われましたけれども、体育施設どうするんだと、施設をどうするんだと。アセットマネジメント、これは前議会、前々議会から、例えば山口昌宏議員、吉川副議長さん、いろいろな方々が本当に心配して言われております。これ私ですね、実はこの白岩の施設、運動施設っていうのは、2010 年、2014 年とおんなじことを質問しています。そのとき浦郷教育長さんが答弁していただいたんですけども、そのとき言ったことはどうなんだと。武雄市も合併して、合併する前とか、合併したら財政厳しくなりますと。そういう中で体育施設をつくるっていうのは大変ですと。じゃあ、財政はどうするんだ。これから交付税もだんだん減らされていく中で、じゃあどうにかしなきゃいけない。もちろん P F I っていうのも一つの手です。

これは山口昌宏議員さんとかいろんな方々と相談した、でもまあ質問も私もしてきたんですけども、ここ大体約 10 万平米。白岩 10 万平米ですね。10 万平米を売却すると売却益が、大体このあたりの坪単価で言うと 68 億。例えば、それに造成を加えて 10 億。例えばこのところを住宅、もしくは商業地として、ディベロッパーなり何かにして。これ多分ですね、売れると思います。そして、さっきおっしゃったハブになったら、もっとこの辺とか価値があります。そういうふうにごくここを売却っていうのも、一つの手じゃないかと。売却益が入ります。さっき言った住宅地にすると何戸でしたっけ。すみません、ちょっと前の質問のときに計算していったんですけども、そのとき浦郷教育長さんの答弁はそれはすばらしい計画ですと。ぜひその財政面が厳しい中、それも大きな選択肢の一つとして今後活用して、武雄の施設の充実を図りたいと思います。そのときに例にお出ししたのがカワチセンダイ市の、原発があるですね、カワチセンダイ市のスポーツ施設。カワチセンダイ市のスポーツ施設は町なかから車で 20 分ぐらい行ったところに、めちゃくちゃすごいのが出来てます。プロ野球の、みゆき公園もあるんですけど、みゆき公園どころではないですね。すごい施設です。そういう中でこの（「カワチセンダイ、カワチセンダイて」と呼ぶ者あり）——カワチセンダイって言いましたっけ。（「薩摩川内やろう」と呼ぶ者あり）僕何って言いました（「カワチセンダイ。薩摩川内て言わんば」と呼ぶ者あり）あ、気づくかなと思って。（笑い声）（「近いから」と呼ぶ者あり）まあ、まあいいです。どっちでもいいです。

その薩摩川内のところはプロ野球も来れば、サッカーの J リーグもキャンプ地に来る。そ

ういう施設が、ここ多分売れたら、武雄市内につくることはできるんですね。さらにこれを売却してつくるわけですけども、さっき上田議員がおっしゃってた国庫支出金もさらにもらえます。するとさらにいい施設がつくれます。ひょっとすると余った、返す刀で文化会館までつくれるかもしれない。それぐらいここは、お宝の土地だと思います。

僕はもう前から言ってるんですけども、ひょっとすると文化会館は町の中心部になんかいけないかもしれないけど、スポーツ施設は離れた、駐車場も多く、施設が充実して、そういうところがあればいいっていうふうな考えで。例えばインターのそばでもいいですし、そういうのが、充実した施設をつくるっていうのが最優先だと思います。ぜひですね、こちらの売却、もしくはディベロッパーをとおしての開発、そういうのに着手しないと、先ほど上田議員さんも言ってたようにもう間に合わないんですね。

僕が質問したときですね、浦郷教育長さんに答えていただきましたけれども、ちょうどその後リーマンショックが起きたんですよ。がばって下がったんですね、なかなか実現には、討論にはならなかったかもしれないけれども、今回アセットマネジメント、そして交付税の削減、そういう中でこの開発っていうのは、大きな選択肢の一つになると思います。そしてそれを実現させて、すばらしい体育施設、スポーツ施設、いろんな誘致ができる、大会の誘致ができるスポーツ施設をぜひつくっていただきたいと思いますが、私はそして個人的には、こういうふうにするしか財政が耐え得ないと思います。大きな選択肢だと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

この案については、有望な提案だというふうに私も考えます。まさにおっしゃったように、財政が厳しい中で、ただ一方で、市民のかんりのサービスというのをそこは低下させない、場合によってはさっき質問ありましたとおり、充実をさせていくという上ではですね、やはりその財源捻出の方法も考えると、これは有望だし大きな選択肢の一つになると思っています。

29年度ですね、先ほども答弁しましたが、スピーディにスポーツの整備計画という、施設の整備計画を策定してまいります。そのときに、これは非常に参考にさせていただきたいなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

きょうの質問ですね、財政が負担にならないような質問を選んでさせていただきました。これでも最後はお金はめっちゃくちゃかかりますけども、財政負担をしなくていい、もし

くは、あわよくば返す刀で文化会館までできるようなやり方でいかがだろうかという提案であります。

昔から言われてます。ここの議会でも多くの議員さんが、市内の子どもたちのために、そしてスポーツを愛する大人の、そしていろんな方々のためにスポーツ施設を充実してくれ。計画していくっていうけど、必ず足かせになるのが財政の問題です、つくるにも。だから捻出しなきゃいけない。捻出するにはこういうお宝を売らなきゃいけない。

ただ、町の中になきゃいけないっていうふうな概念だと、これはだめですけども。ぜひ実行して、計画していただきたいと思います。では、最後の質問であります。

最後の質問は、競輪場があります。競輪場で、これちょっと今言ったのと裏腹で、現実的にはどうかとは思いますが、ぜひ努力していただきたいのが、さっき国体の誘致がありました。僕はオリンピックのほうで、ぜひオランダの自転車チームとか何とかのキャンプ地にしてほしいんですね。何でオランダかっていうと、嬉野のほうではオランダのソフトボールチームが来たり、そがんやったですね、オランダチームじゃなかったですかね、ソフトボール。「女子野球、女子野球」と呼ぶ者あり）あ、女子野球。そうなんですよ、女子野球なんですよ。女子野球が来たり、あとは武雄市も何だっけ。プログラミング教育か花まるのやつで、オランダのほうに行きましたよね。だからそういうふうな関係がないわけじゃない。

だから、私ちょっとこれ最後は夢みたいなあれで、せっかくこうやって、温泉もある。今回はオリンピックの分は県からの割り振りはない。中津江村でブレーメンじゃないや、「カメルーン」と呼ぶ者あり）カメルーン。カメルーンは自分たちが営業してとってこられました。そういうのも、一つの誘致だと思います。そういう部分で頑張っただけじゃないか。

やっぱりいつもですね、さっきスポーツ施設がまだ充実してないんで、いつも嬉野、嬉野って言われると、やっぱり武雄市民もシチャってなるかもしれないですね。でも唯一嬉野にないのはこれなんですね。自転車競技。周りにないのが。佐賀県で周りにないの、自転車競技。自転車競技は、だから誘致は営業できるんですよ。そういう中で夢はでっかくオリンピック。オランダチームとかこう来て、させて、誘致できないもんか。これをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まあオランダといえば、私もオランダ行きましたけれども、もう自転車に乗っている人がすごく多いんですね。自転車競技も盛んだと。

県もオランダとのつながりがあるというところで、確かにオランダ、自転車競技というのは、この佐賀、武雄、競輪場を持つ武雄というところに非常に相性がいいのかなと思っています。

ちょうど先日、元オリンピック担当大臣の遠藤大臣とお会いする機会がありまして、たし

か来年の秋ぐらいまでですね、これは募集を、キャンプ地の募集をしているというふうに聞きました。

だからぜひ、機会あればどんどん手を挙げてくださいという話もありましたので、まずはキャンプ地として要件とかもちょっとまだ調べてませんので、そこをしっかりとまずは調べて、そして手を挙げられるようであればですね、ぜひ積極的に手を挙げていきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

これも一つの何て言うんですか、オランダチームが来たから云々じゃないんですよ。例えば、もちろん知名度も上がると思います。やっぱり子どもたちとか何とか、オランダチームも来とうもんねっていうのがやっぱり心の誇りになるんですね。そういう形が、これが最初の、これにつながるわけですね。だからこういうのを充実させといて、うちはこういうロードコースもつくっていますよ、さらにオリンピックのほうもっていうと、これにちょっと最後ひっかけてやっていただければと思います。

以上、質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で20 番牟田議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 15時24分

